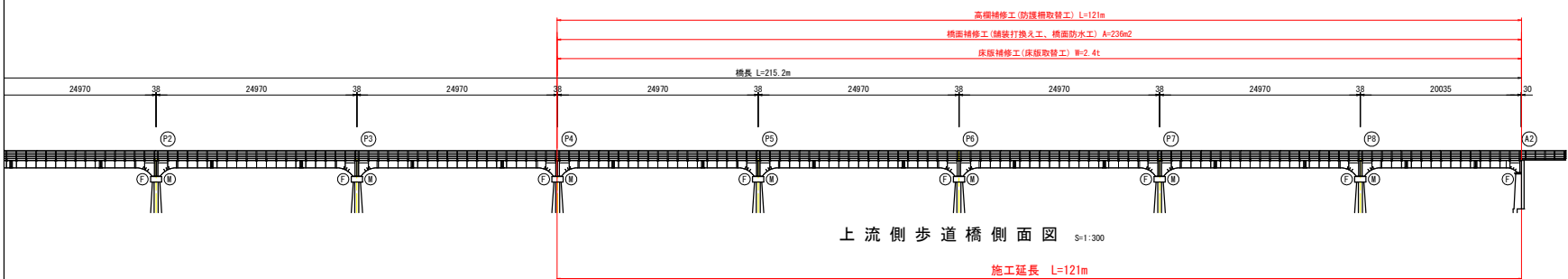
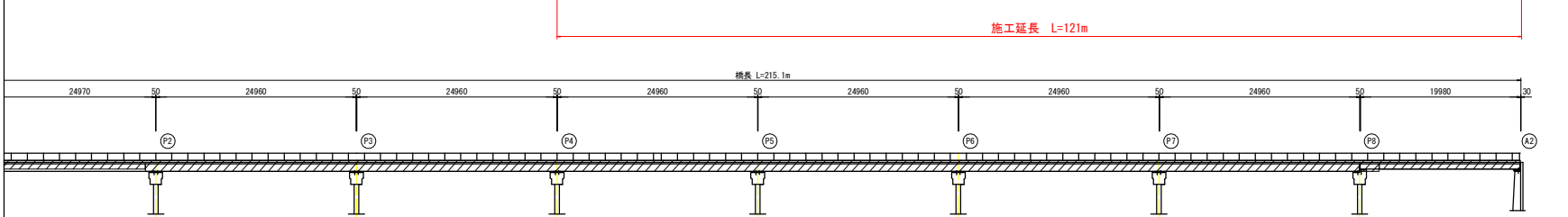


橋 梁 補 修 計 画 一 般 図

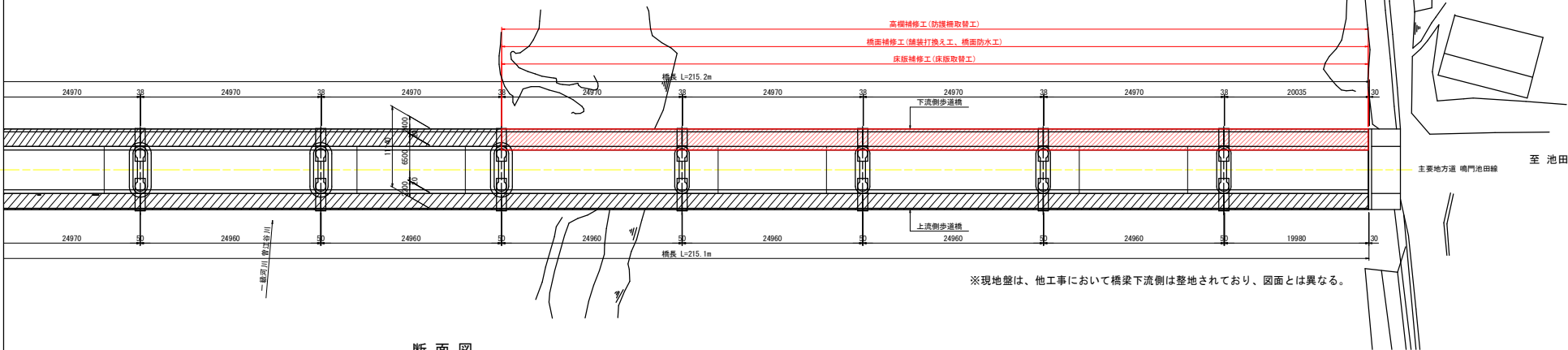
下 流 側 歩 道 橋 側 面 図 S=1:300



上 流 側 歩 道 橋 側 面 図 S=1:300



平 面 図 S=1:300



※現地盤は、他工事において橋梁下流側は整地されており、図面とは異なる。

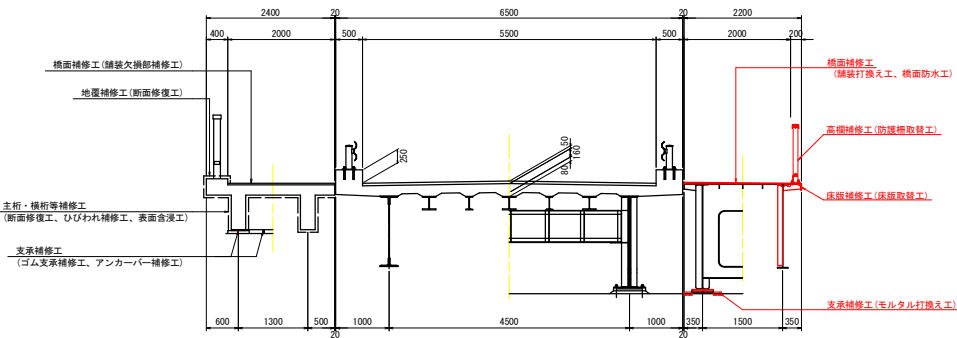
断 面 図 S=1:50

上流側歩道橋

支 点 部 標 準 部

下流側歩道橋

支 点 部 標 準 部



下流側歩道橋 補修工法一覧

補 修 工 法 一 覧			
部位・部材	劣化状況	補修工法	備 考
床版	腐食(孔食)・防錆機能の劣化	床版補修工	床版取替工(腐食部)
橋面	路面の凹凸等	舗装打替え工、橋面防水工	樹脂モルタル舗装、ゴム溶剤塗膜防水
防護柵	腐食(基部)	防護柵補修工	防護柵取替工
支 承	管座モルタル剥離	モルタル補修工	管座モルタル打設

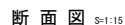
上流側歩道橋 補修工法一覧

補 修 工 法 一 覧			
部位・部材	劣化状況	補修工法	備 考
主桁・横桁・床版等	ひびわれ	ひびわれ補修工	低圧注入工法、充填工法
	うき、剥離、鉄筋露出	断面修復工	左官工法
	中性化	表面保護工	表面含浸工
橋面	路面の凹凸	欠損部補修工	アスファルト
	ゴム剥離	ゴム支承補修工	ゴム支承用耐候性表面保護材塗布
支 承	アンカーバー腐食	アンカーバー補修工	アンカーバー防錆処理

実施設計図面

工 事 名	R7馬土 鳴門池田線(管江谷橋) 奥・臨岸原 橋梁補修工事		
路線名等	(主) 鳴門池田線(管江谷橋)		
工事箇所	奥馬市臨岸原		
図 面 名	橋梁補修計画一般図		
縮 尺	図 示	図面番号	1 / 21
会 社 名			
事業者名	徳島県西部総合振興局(奥馬)		

S=1 : 40



補修凡例

注) 1. 現地計測時に舗装を開削し、舗装厚の確認を行うこと。開削位置および数量は監督員と協議により決定すること。

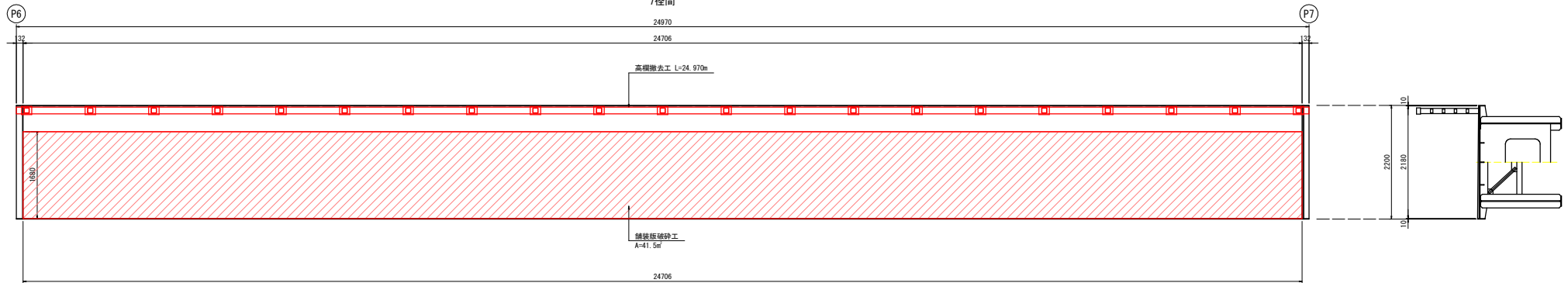
2. 施工時は鋼床版を損傷させず施工を実施すること。

実施設計図面

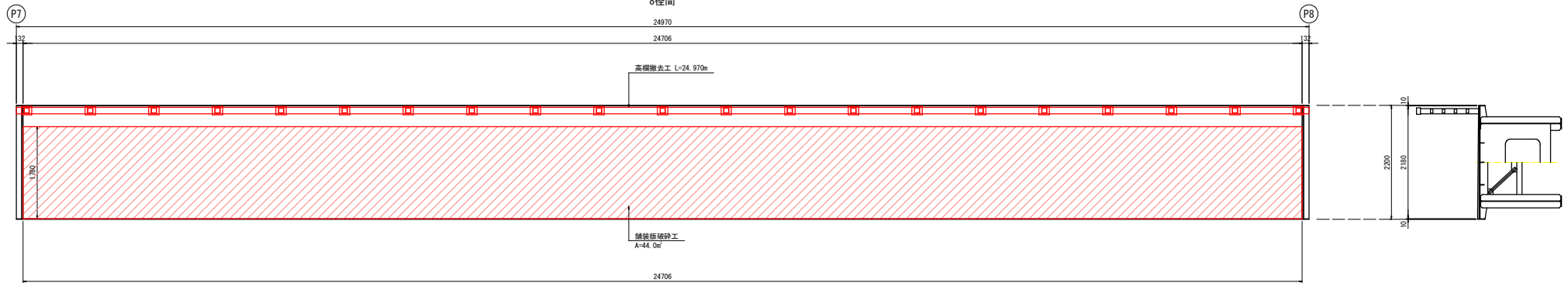
S=1:40

橋面工撤去図

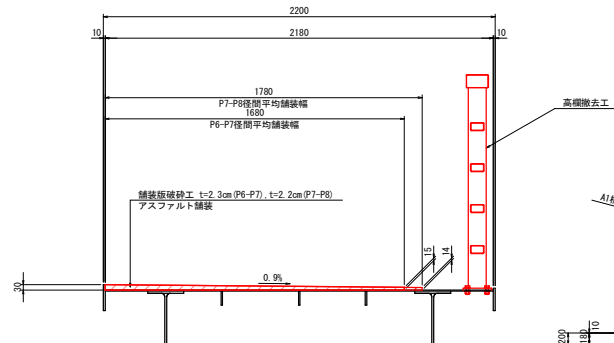
7徑間



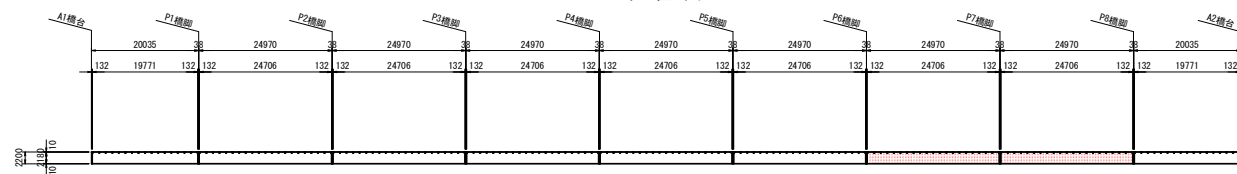
8徑間




断面图 S=1:15



位置図



補修凡例

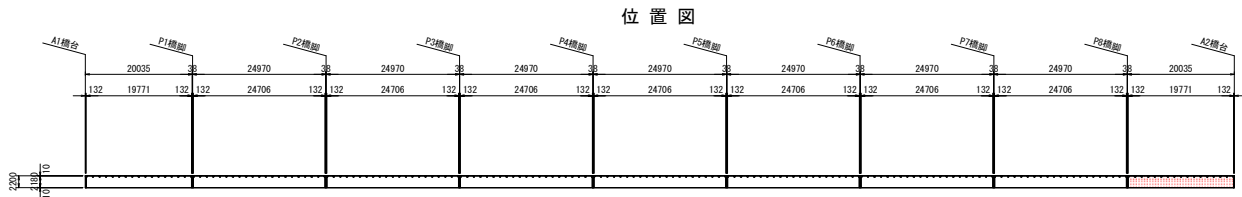
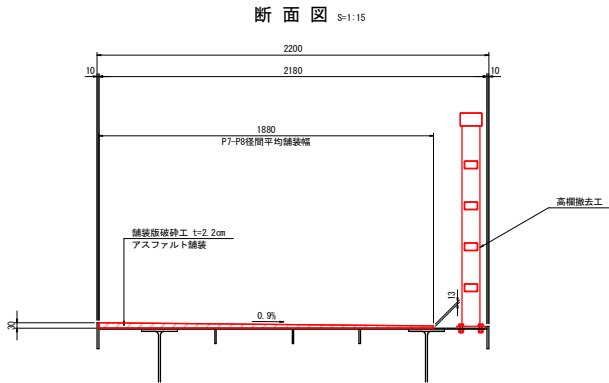
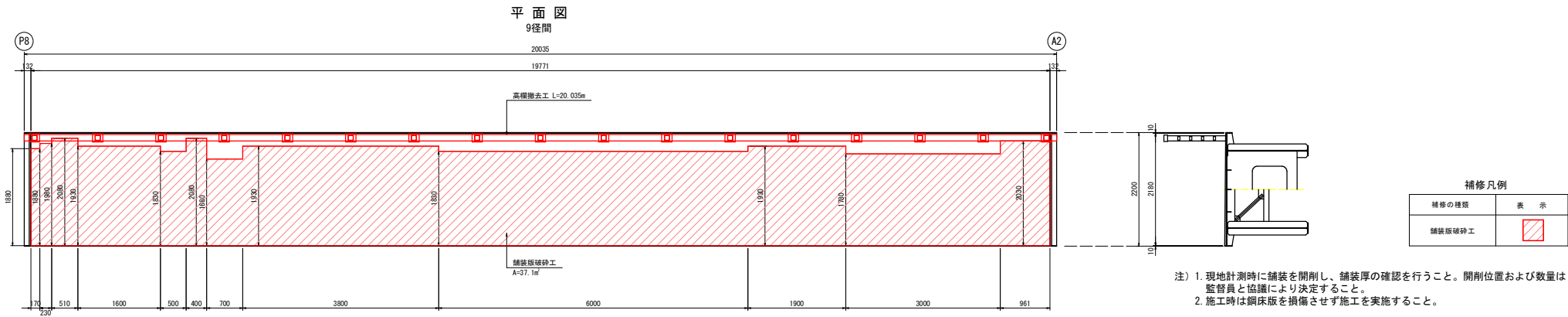
補修の種類	表 示
舗装版破砕工	

注) 1. 現地計測時に舗装を開削し、舗装厚の確認を行うこと。開削位置および数量は監督員と協議により決定すること。
2. 施工時は鋼版を損傷させず施工を実施すること。

実施設計図面

工 事 名	R7 馬士 鳴門池田線 (管江谷橋) 美・福井県 橋梁修繕工事		
路線名等	(主) 鳴門池田線 (管江谷橋)		
工事箇所	美馬市臨町字原		
図 面 名	下流側倒壊橋 床版・橋面工費去圖 (2/7)		
縮 尺	図 示	図面番号	3 / 21
会 社 名			
事業者名	徳島県西部総合農林民局 (美馬)		

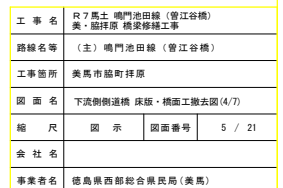
下流側側道橋 床版・橋面工撤去図 (3/7) S=1:40
橋面工撤去図



実施設計図面

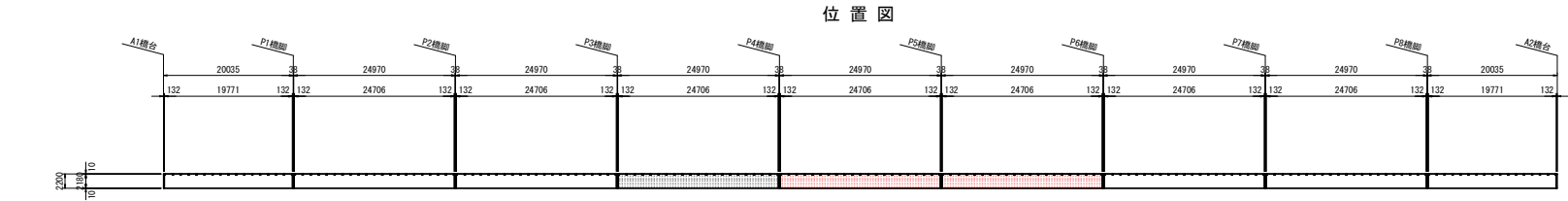
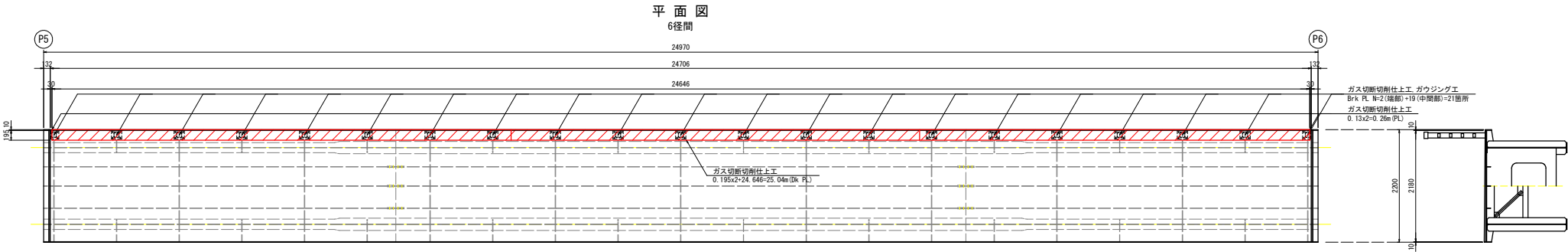
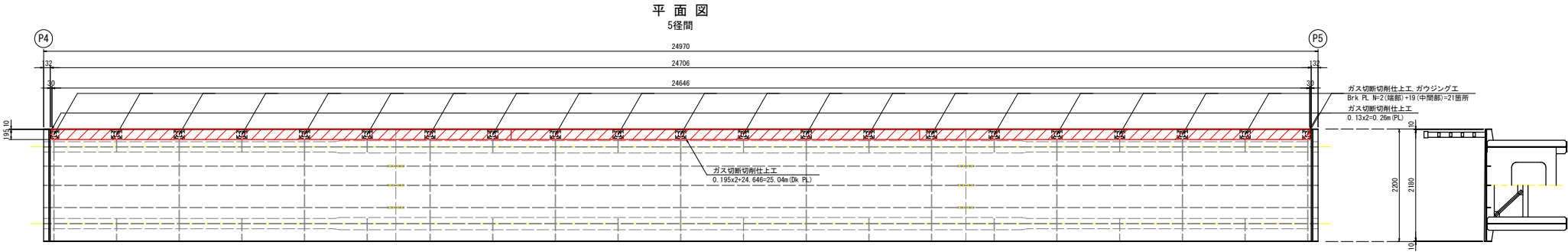
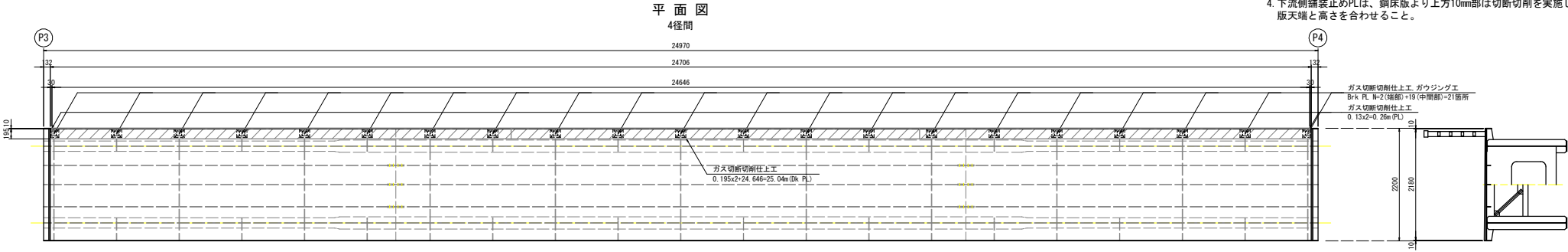
工 事 名	R7 馬土 鳴門池田線 (管江谷橋) 奥・脇坪原 橋梁修繕工事		
路線名等	(主) 鳴門池田線 (管江谷橋)		
工事箇所	美馬市脇町坪原		
図 面 名	下流側側道橋 床版・橋面工撤去図 (3/7)		
縮 尺	図 示	図面番号	4 / 21
会 社 名			
事業者名	徳島県西部総合振興局 (美馬)		

S=1:40



下流側側道橋 床版・橋面工撤去図 (5/7) S=1:40
床版工撤去図

- 注) 1. 施工前に、近接調査計測を実施し、既設構造物の詳細寸法計測、障害の有無及びハンドリング等を調査すること。
2. 残存PLにガス切断での熱影響を加えないため、10mm残しでガス切断し、残りをグラインダー等で母材表面まで切削する。
3. Brk PLは新規部材取付時の支保工用として、一部残した計画としている。不要の場合は、撤去しても良い。
4. 下流側舗装止めPLは、鋼床版より上方10mm部は切断切削を実施し、鋼床版天端と高さを合わせること。



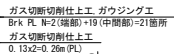
実施設計図面

工事名	R7 馬士 嶋門池田線 (曾江谷橋) 奥・脇岸原 橋梁修繕工事		
路線名等	(主) 嶋門池田線 (曾江谷橋)		
工事箇所	奥馬市脇岸原		
図面名	下流側側道橋 床版・橋面工撤去図 (5/7)		
縮尺	図示	図面番号	6 / 21
会社名			
事業者名	徳島県西部総合振興局 (奥馬)		

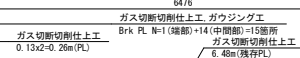
$$S=1:4C$$

と。

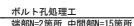
7徑間



8徑間



9 徑間



位置図



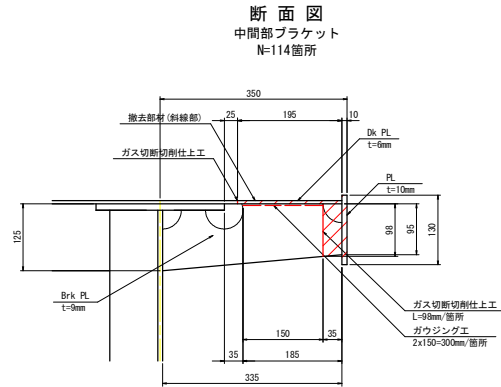
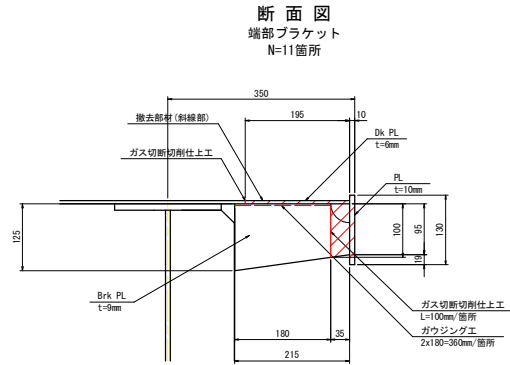
工 事 名	R7馬土 鳴門池田線（曾江谷橋） 美・姫持原 橋梁修繕工事		
路線名等	（主）鳴門池田線（曾江谷橋）		
工事箇所	美馬市姫持原		
図 面 名	下流側倒道橋 床版・橋面工撤去図(6/7)		
縮 尺	図 示	図面番号	7 / 21
会 社 名			
事業者名	徳島県西部総合県民局（美馬）		

下流側側道橋 床版・橋面工撤去図 (7/7)

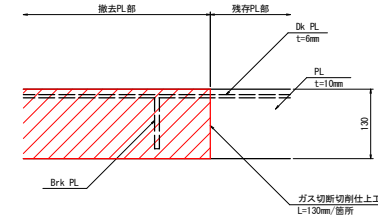
S=1:5

床版工撤去図

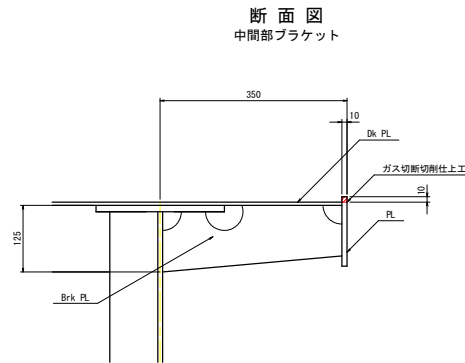
撤去部詳細図 S=1:5



側面図



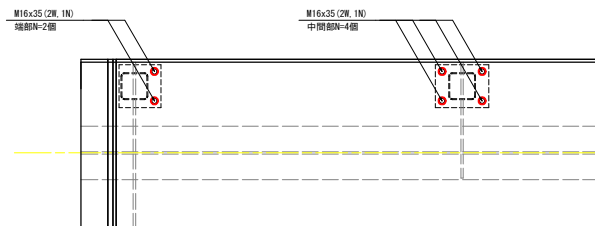
残存部詳細図 S=1:5



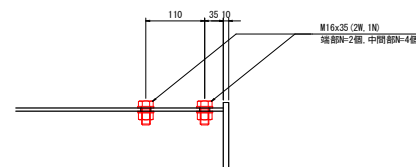
- 注) 1. 施工前に、近接調査計測を実施し、既設構造物の詳細寸法計測、障害の有無及びハンドリング等を調査すること。
2. 残存PLにガス切断での熱影響を加えないため、10mm残しでガス切断し、残りをグラインダー等で母材表面まで切削する。
3. Brk PLは新規部材取付時の支保工用として、一部残した計画としている。不要の場合は、撤去しても良い。
4. 下流側舗装止めPLは、鋼床版より上方10mm部は切断切削を実施し、鋼床版天端と高さを合わせること。
5. 高欄撤去後のボルト孔については、ボルトによる塞孔処理を実施すること。

既設ボルト孔処理

平面図 S=1:10



断面図 S=1:5



ボルト孔処理工数量集計

径間名	数量(本)	備考
A1-P1径間	- 本	
P1-P2径間	- 本	
P2-P3径間	- 本	
P3-P4径間	- 本	
P4-P5径間	- 本	
P5-P6径間	- 本	
P6-P7径間	- 本	
P7-P8径間	22 本	
P8-A2径間	64 本	
合計	86 本	

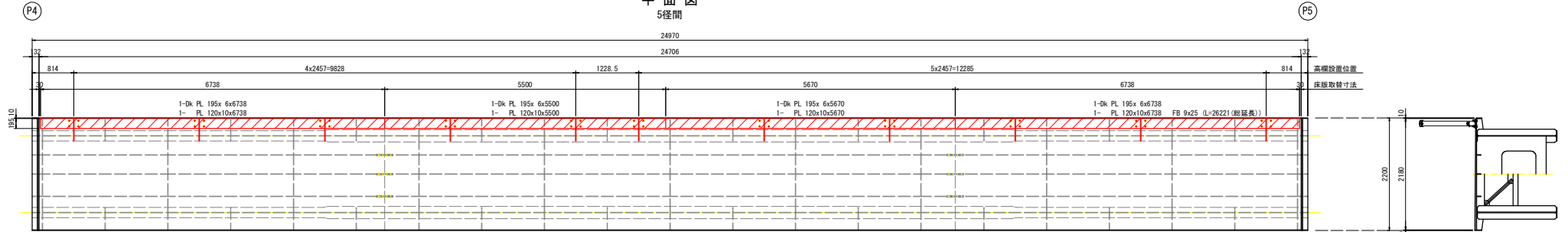
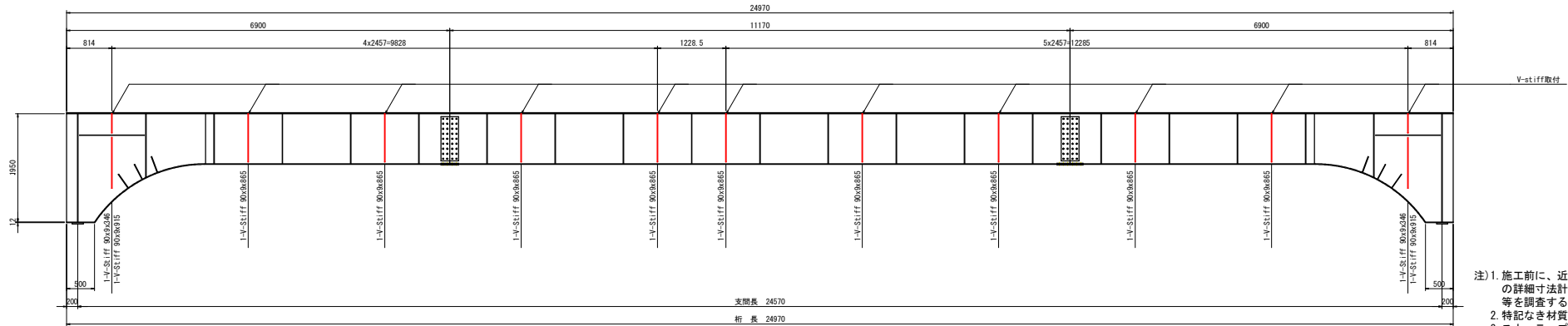
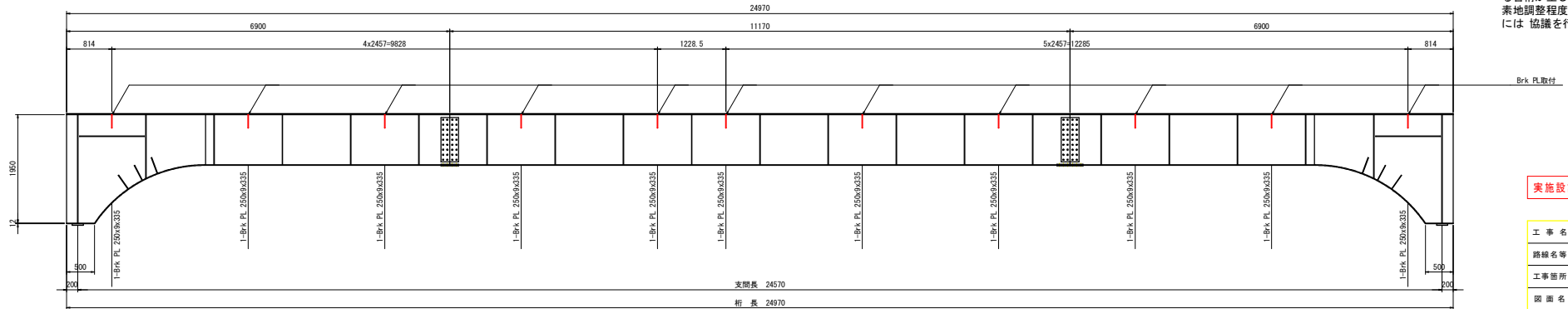
実施設計図面

工事名	R7馬士 鳴門池田線 (管江谷橋) 奥・脇岸原 橋梁修繕工事		
路線名等	(主) 鳴門池田線 (管江谷橋)		
工事箇所	奥馬市脇岸原		
図面名	下流側側道橋 床版・橋面工撤去図 (7/7)		
縮尺	図示	図面番号	8 / 21
会社名			
事業者名	徳島県西部総合振興局 (奥馬)		

下流側側道橋 床版工補修詳細図 (1/9)

S=1:40

床版取替工詳細図

平面図
5径間側面図
内面側面図
外面

- 注) 1. 施工前に、近接調査計測を実施し、既設構造物の詳細寸法計測、障害の有無及びハンドリング等を調査すること。
2. 特記なき材質はSM400Aを示す。
3. スカールップは35Rとする。
4. 既設部材と補強部材の接合箇所は、既設部材の塗膜及びさびを除去する。
- 素地調整の範囲は別途図面参照。
- 本橋周辺には商業施設および民家が近接しているため、第三者によって粉塵飛散、騒音に対する苦情が生じるなど、工事上の制約によって、素地調整程度1種（プラスト工）が不可能な場合には協議を行う。

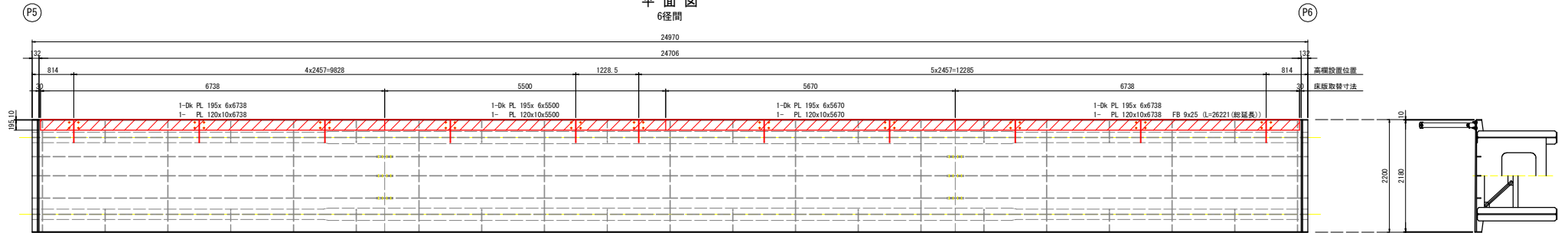
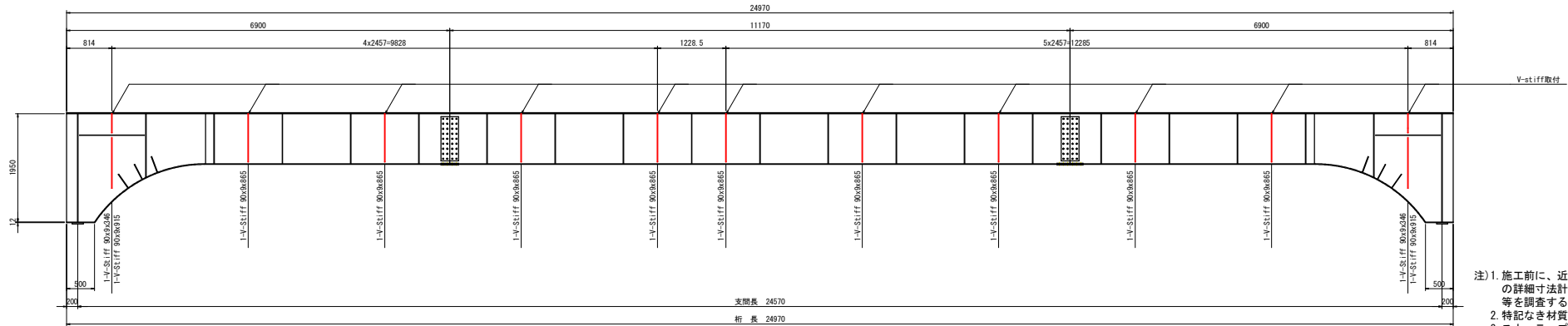
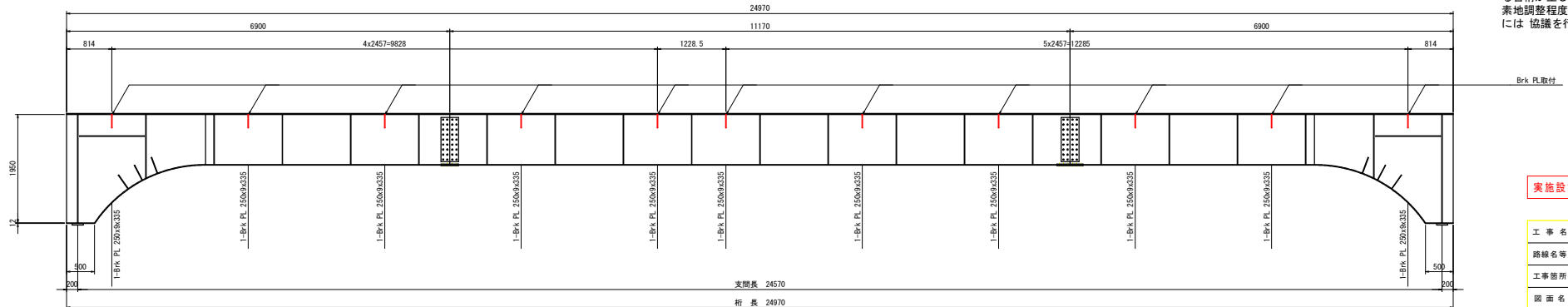
実施設計図面

工 事 名	R7馬土 鳴門池田線（管江谷橋） 美・脇野原 橋梁修繕工事		
路線名等	（主） 鳴門池田線（管江谷橋）		
工事箇所	美馬市脇野原		
図 面 名	下流側側道橋 床版工補修詳細図 (1/9)		
縮 尺	1:40	図面番号	9 / 21
会 社 名			
事業者名	徳島県西部総合県民局(美馬)		

下流側側道橋 床版工補修詳細図 (2/9)

S=1:40

床版取替工詳細図

平面図
6径間側面図
内面側面図
外面

- 注) 1. 施工前に、近接調査計測を実施し、既設構造物の詳細寸法計測、障害の有無及びハンドリング等を調査すること。
2. 特記なき材質はSM400Aを示す。
3. スカールップは35Rとする。
4. 既設部材と補強部材の接合箇所は、既設部材の塗膜及びさびを除去する。
素地調整の範囲は別途図面参照。
本橋周辺には商業施設および民家が近接しているため、第三者によって粉塵飛散、騒音に対する苦情が生じるなど、工事上の制約によって、素地調整程度1種（プラスト工）が不可能な場合には協議を行う。

実施設計図面

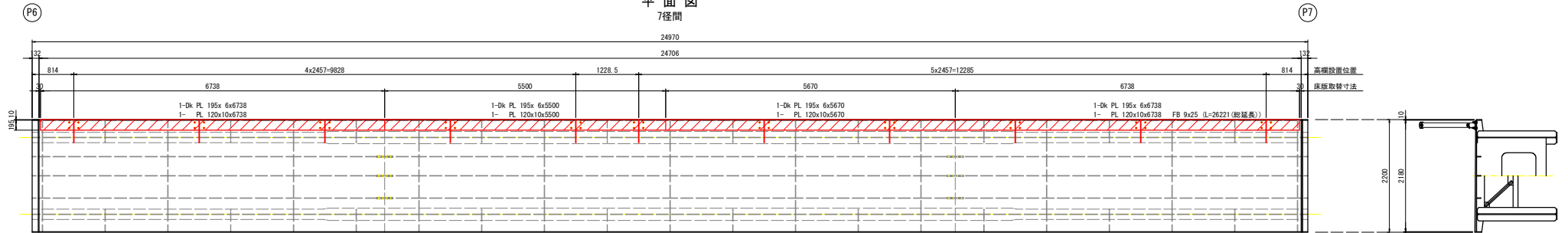
工事名	R7 馬士 鳴門池田線（管江谷橋） 美・脇津原 橋梁補修工事		
路線名等	（主）鳴門池田線（管江谷橋）		
工事箇所	美馬市脇津原		
図面名	下流側側道橋 床版工補修詳細図 (2/9)		
縮尺	1:40	図面番号	10 / 21
会社名			
事業者名	徳島県西部総合県民局（美馬）		

下流側側道橋 床版工補修詳細図 (3/9)

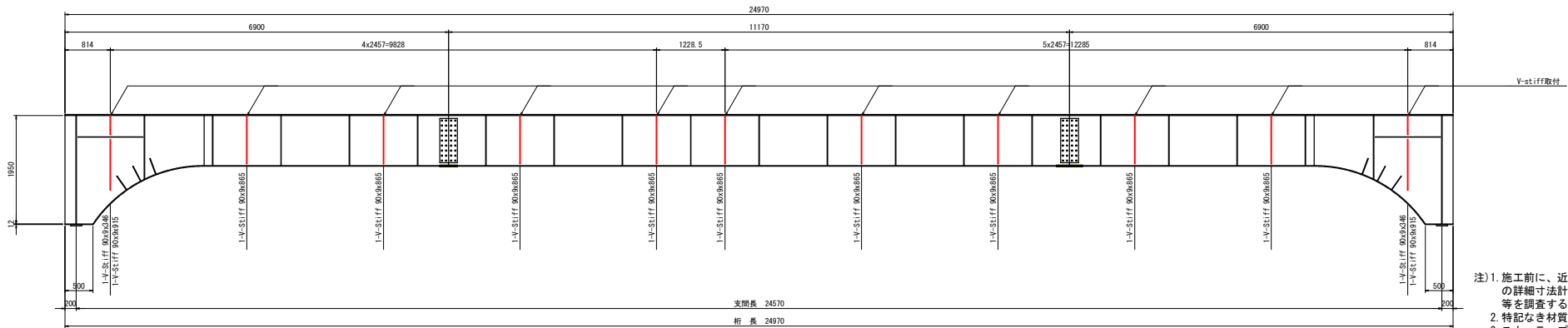
S=1:40

床版取替工詳細図

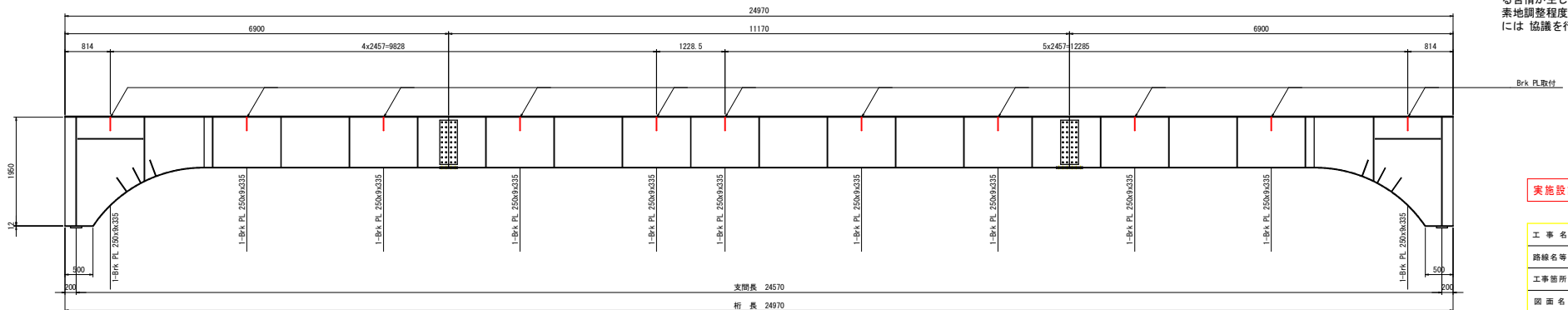
平面図
7径間



側面図
内面



側面図
外面



- 注) 1. 施工前に、近接調査計測を実施し、既設構造物の詳細寸法計測、障害の有無及びハンドリング等を調査すること。
2. 特記なき材質はSM400Aを示す。
3. スカールアップは35Rとする。
4. 既設部材と補強部材の接合箇所は、既設部材の塗膜及びさびを除去する。
- 素地調整の範囲は別途図面参照。
- 本橋周辺には商業施設および民家が近接しているため、第三者によって粉塵飛散、騒音に対する苦情が生じるなど、工事上の制約によって、素地調整程度1種（プラスト工）が不可能な場合には協議を行う。

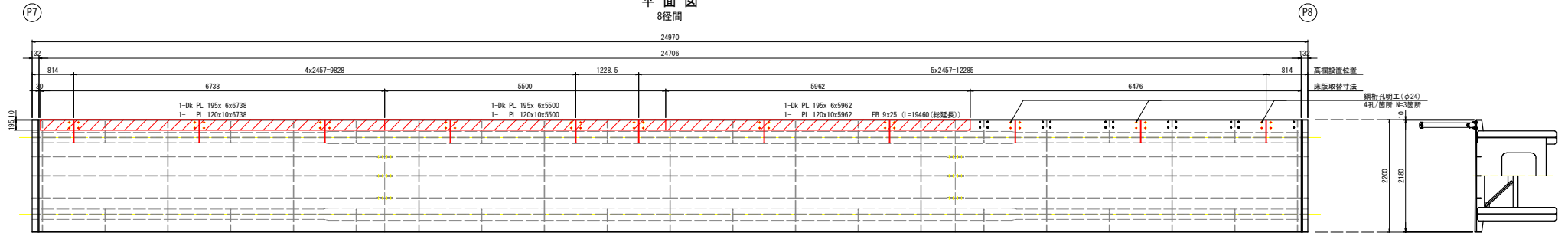
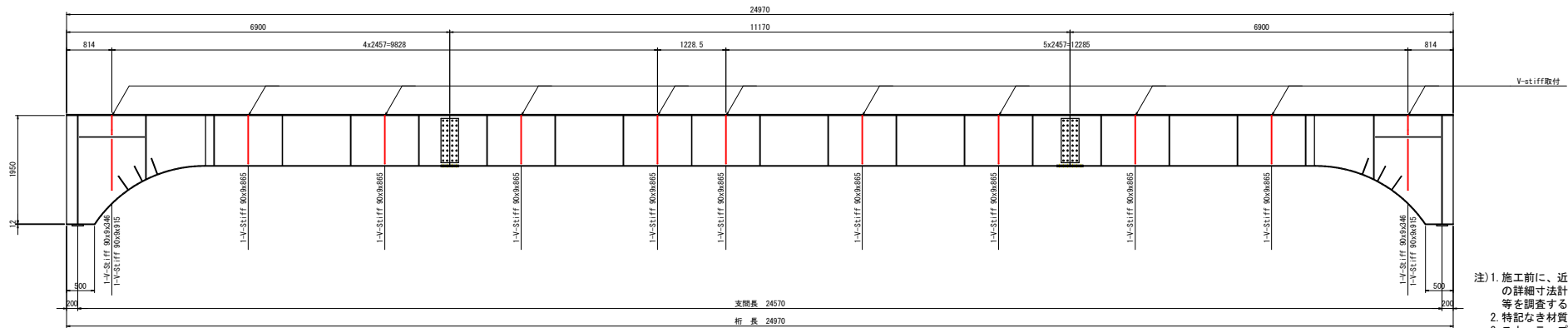
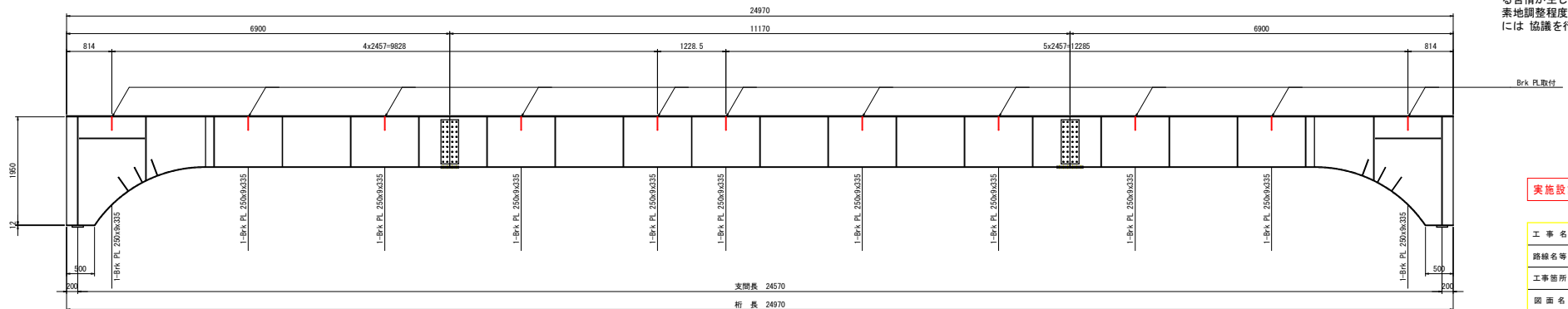
実施設計図面

工事名	R7 馬士 鳴門池田線（管江谷橋） 美・脇津原 橋梁補修工事		
路線名等	（主）鳴門池田線（管江谷橋）		
工事箇所	美馬市脇津原		
図面名	下流側側道橋 床版工補修詳細図 (3/9)		
縮尺	1:40	図面番号	11 / 21
会社名			
事業者名	徳島県西部総合県民局（美馬）		

下流側側道橋 床版工補修詳細図 (4/9)

S=1:40

床版取替工詳細図

平面図
8径間側面図
内面側面図
外面

- 注) 1. 施工前に、近接調査計測を実施し、既設構造物の詳細寸法計測、障害の有無及びハンドリング等を調査すること。
2. 特記なき材質はSM400Aを示す。
3. スカールップは35Rとする。
4. 既設部材と補強部材の接合箇所は、既設部材の塗膜及びさびを除去する。
- 素地調整の範囲は別途図面参照。
- 本橋周辺には商業施設および民家が近接しているため、第三者によって粉塵飛散、騒音に対する苦情が生じるなど、工事上の制約によって、素地調整程度1種（プラスト工）が不可能な場合には協議を行う。

実施設計図面

工事名	R7 馬士 鳴門池田線（管江谷橋） 美・脇井原 橋梁補修工事		
路線名等	（主）鳴門池田線（管江谷橋）		
工事箇所	美馬市脇井原		
図面名	下流側側道橋 床版工補修詳細図 (4/9)		
縮尺	1:40	図面番号	12 / 21
会社名			
事業者名	徳島県西部総合県民局(美馬)		

下流側側道橋床版工補修詳細図 (5/9)

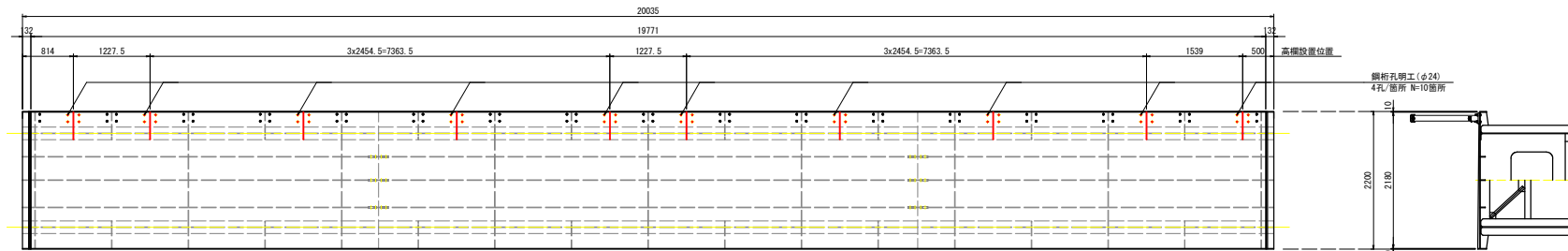
S=1:40

床版取替工詳細図

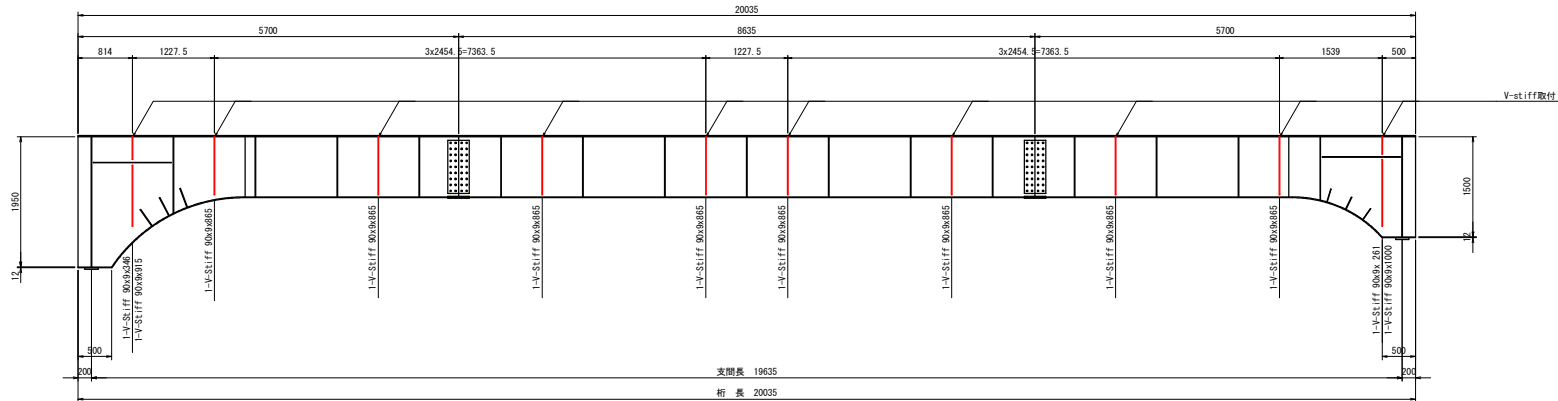
平面図
9径間

P8

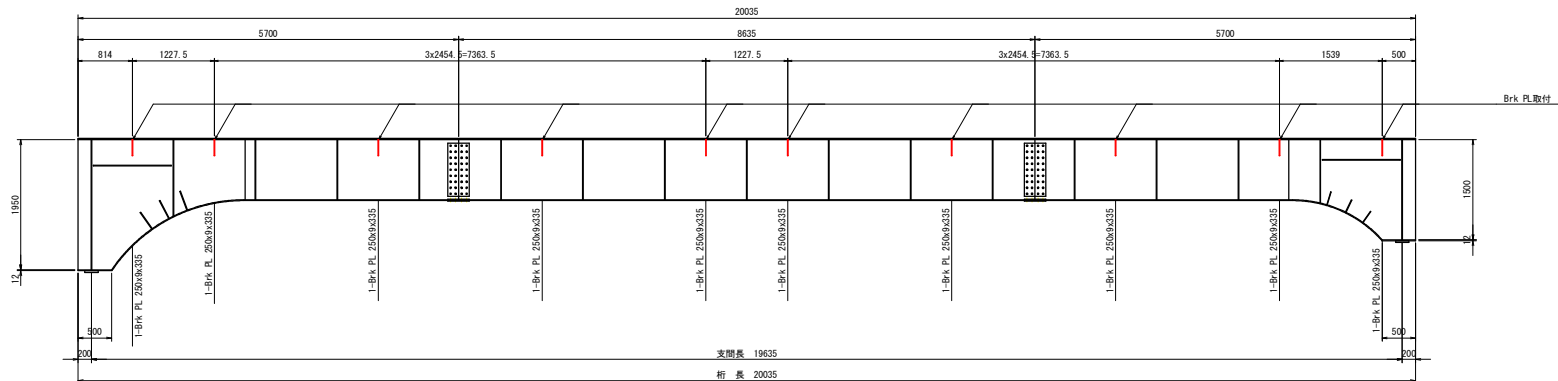
A2



側面図
内面



側面図
外面



- 注) 1. 施工前に、近接調査計測を実施し、既設構造物の詳細寸法計測、障害の有無及びハンドリング等を調査すること。
2. 特記なき材質はSM400Aを示す。
3. スカーラップは35Rとする。
4. 既設部材と補強部材の接合箇所は、既設部材の塗膜及びさびを除去する。素地調整の範囲は別途図面参照。
本橋周辺には商業施設および民家が近接しているため、第三者によって粉塵飛散、騒音に対する苦情が生じるなど、工事上の制約によって、素地調整程度1種（プラスト工）が不可能な場合には協議を行う。

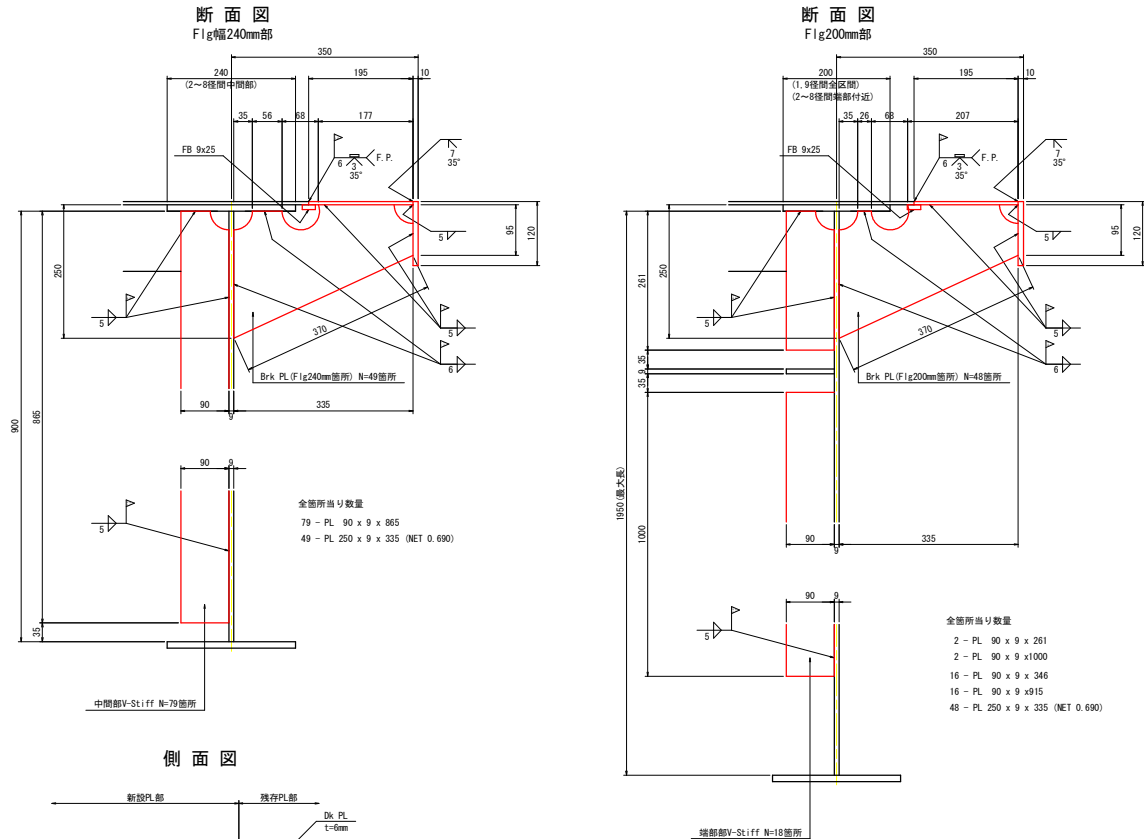
実施設計図面

工事名	R7 馬土 鳴門池田線（管江谷橋） 奥・脇岸原 橋梁修繕工事		
路線名等	（主）鳴門池田線（管江谷橋）		
工事箇所	奥馬市脇岸原		
図面名	下流側側道橋 床版工補修詳細図 (5/9)		
縮尺	1:40	図面番号	13 / 21
会社名			
事業者名	徳島県西部総合農民局(奥馬)		

下流側側道橋 床版工補修詳細図 (6/9)

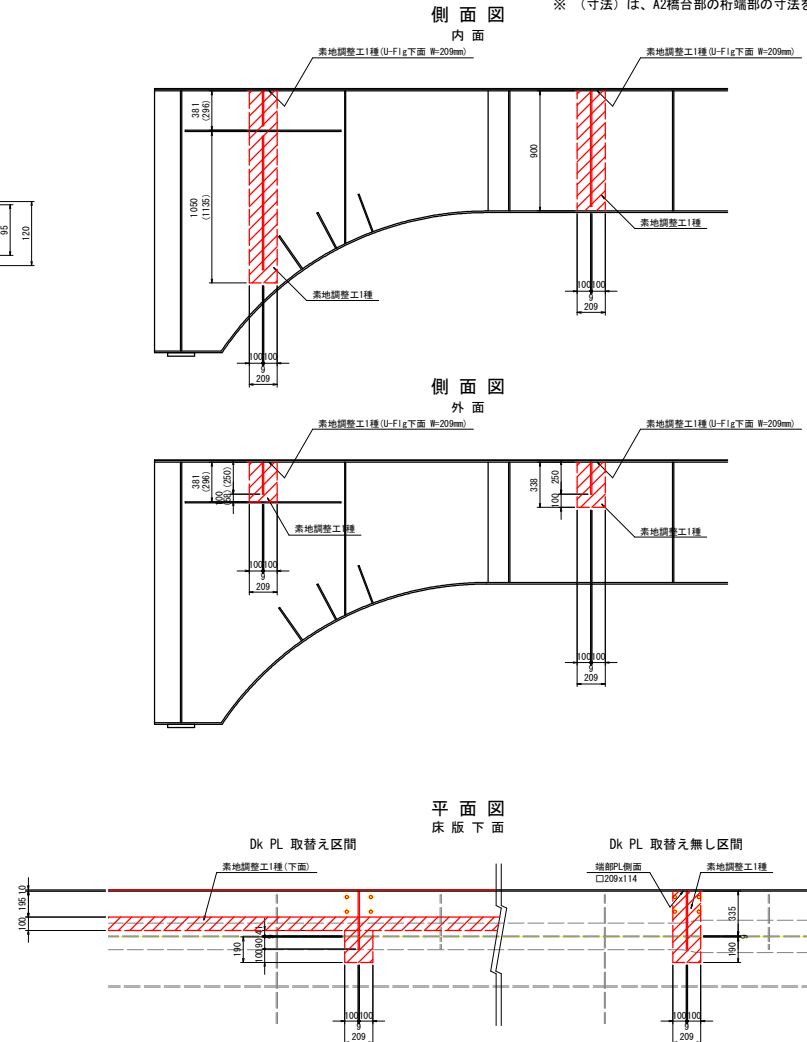
床版取替工詳細図

高欄補強部材詳細図 S=1:5



素地調整工詳細図 S=1:20

※ (寸法)は、A2橋台部の桁端部の寸法を示す。

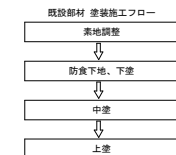


新規部材 塗装規格表 (スプレー)				
塗装工程	規格	使用量 (g/m ²)	塗装間隔	
製鋼工場	素地調整	プラスト処理 ISO Sa 2 1/2	4時間以内	
	プライマー	無機ジシクリッチペイント	6ヶ月以内	
橋梁製作工場	2次素地調整	プラスト処理 ISO Sa 2 1/2	4時間以内	
	防食下地	無機ジシクリッチペイント	4時間以内	

新規部材 現場溶接部塗装規格表 (スプレー)				
塗装工程	規格	使用量 (g/m ²)	塗装間隔	
現場	素地調整	動力工具処理	4時間以内	
	防食下地	有機ジシクリッチペイント	1～10日	
	下塗り	変性エポキシ樹脂塗料下塗	1～10日	
	中塗り	変性エポキシ樹脂塗料中塗	1～10日	
	上塗り	変性エポキシ樹脂塗料上塗	1～10日	

※1：原則はスプレー塗装とするが、発注者との協議の上で、はけ、ローラーに変更できる。
※2：現場の施工条件に応じて塗装間隔を別途取り決める場合もある。
※3：プラスト処理による除錆度は ISO 8501-1 Sa 2 1/2 とする。
※4：製鋼工場におけるプライマーは膜厚 (15μm) にて管理する。

既設部材 塗装規格表 (Rc-塗装系) (スプレー)			
名 称	規格	使用量 (g/m ²)	塗装間隔
素地調整	1種		4時間以内
防食下地	有機ジシクリッチペイント	600	1～10日
下塗り	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1～10日
中塗り	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料中塗	240	1～10日
上塗り	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料上塗	170	1～10日



※1：原則はスプレー塗装とするが、発注者との協議の上で、はけ、ローラーに変更できる。
※2：現場の施工条件に応じて塗装間隔を別途取り決める場合もある。
※3：プラスト処理による除錆度は ISO 8501-1 Sa 2 1/2 とする。

- 注) 1. 施工前に、近接調査計測を実施し、既設構造物の詳細寸法計測、障害の有無及びハンドリング等を調査すること。
2. 特記なき材質はSM400Aを示す。
3. スカールップは35Rとする。
4. 既設部材と補強部材の接合箇所は、既設部材の塗膜及びさびを除去する。素地調整の範囲は図面参照。
本橋周辺には商業施設および民家が近接しているため、第三者によって粉塵飛散、騒音に対する苦情が生じるなど、工事上の制約によって、素地調整程度1種 (プラスト工) が不可能な場合には 協議を行う。
5. 新規部材C-5塗装系、現場溶接箇所は、F-13塗装系としている。
変更等を実施する場合は、発注者の承諾を得て、変更すること。
6. 塗装色は既設塗装と同色とする。
7. 塗装箇所は、素地調整工、新規取付部材および橋面Dk PL上面 (補修箇所) の範囲とする。
8. V型剛先溶接の寸法は、「デザインデータブック」を参考に決定している。

実施設計図面

工事名	R7馬士 鳴門池田線 (曾江谷橋) 呉・臨洋原 橋梁補修工事		
路線名等	(主) 鳴門池田線 (曾江谷橋)		
工事箇所	呉市臨洋原		
図面名	下流側側道橋 床版工補修詳細図 (6/9)		
縮尺	図示	図面番号	14 / 21
会社名			
事業者名	徳島県西部総合県民局 (呉市)		

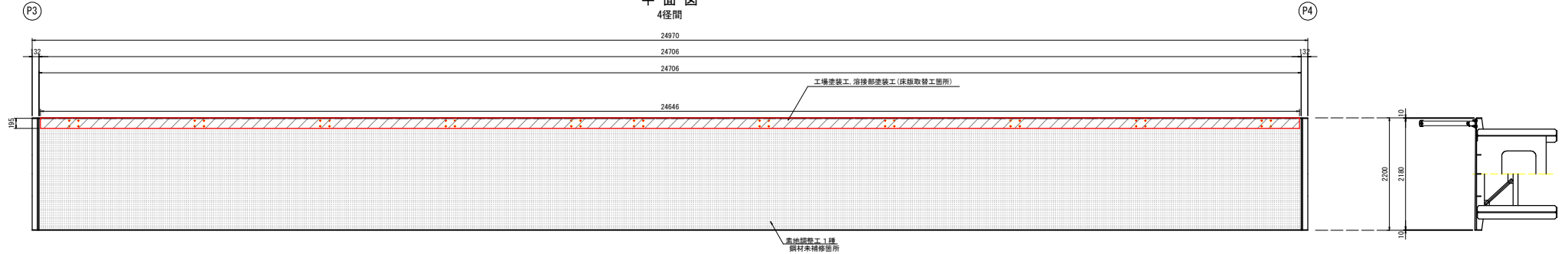
下流側側道橋床版工補修詳細図(7/9)

S=1:40

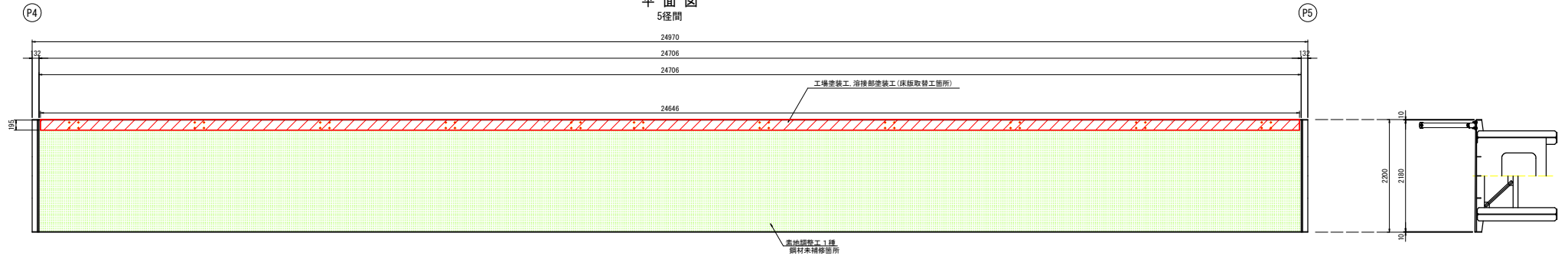
床版上面補修工詳細図

- 注) 1. 施工前に、近接調査計測を実施し、既設構造物の詳細寸法計測、障害の有無及びハンドリング等を調査すること。
2. 端部よりW=200mmの範囲及び、床版取替工部については、現場塗装(一部工場)を実施する。
3. 床版上面(既設床版箇所)に、素地調整工1種を実施する。
本橋周辺には商業施設および民家が近接しているため、第三者によって粉塵飛散、騒音に対する苦情が生じるなど、工事上の制約によって、素地調整程度1種(プラスト工)が不可能な場合には協議を行う。

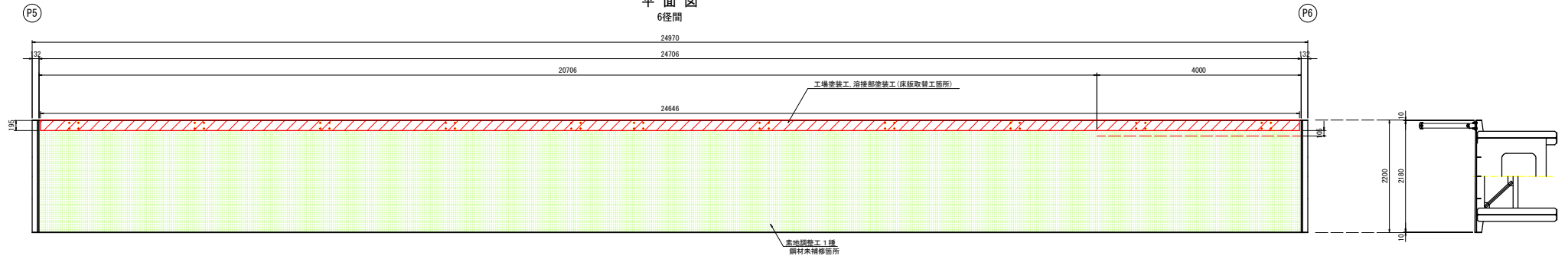
平面図
4径間



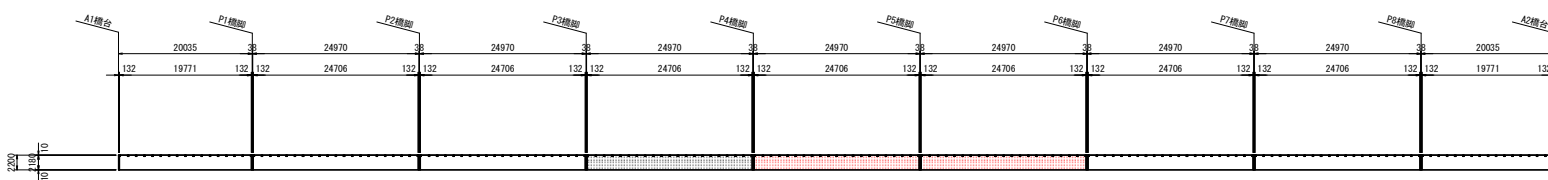
平面図
5径間



平面図
6径間



位置図



実施設計図面

工事名	R7馬士 鳴門池田線(曾江谷橋) 奥・脇岸原 橋梁修繕工事		
路線名等	(主) 鳴門池田線(曾江谷橋)		
工事箇所	奥馬市脇岸原		
図面名	下流側側道橋 床版工補修詳細図(7/9)		
縮尺	1:40	図面番号	15 / 21
会社名			
事業者名	徳島県西部総合県民局(奥馬)		

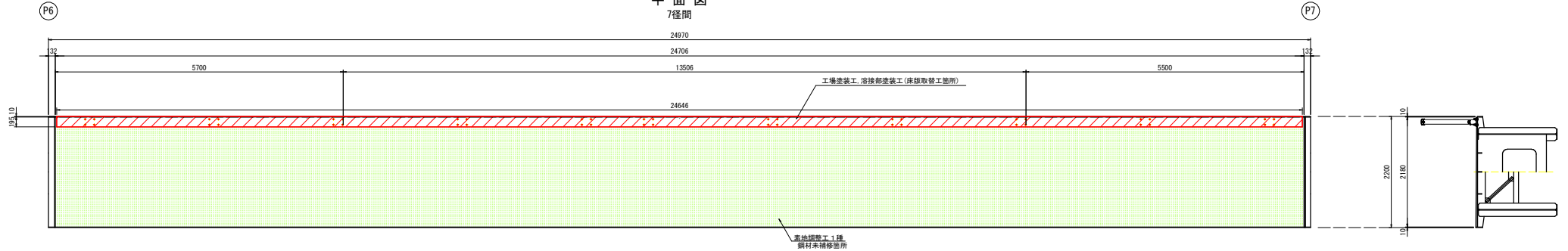
下流側側道橋床版工補修詳細図(8/9)

S=1:40

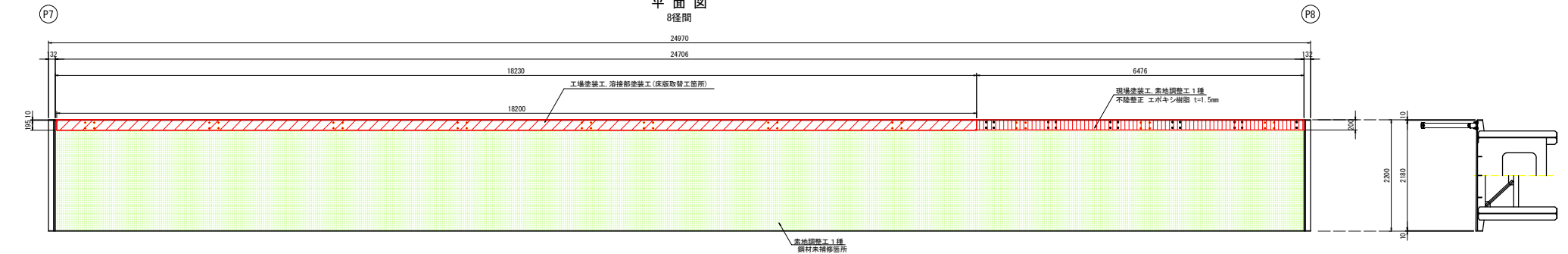
床版上面補修工詳細図

- 注) 1. 施工前に、近接調査計測を実施し、既設構造物の詳細寸法計測、障害の有無及びハンドリング等を調査すること。
2. 端部よりW=200mmの範囲及び、床版取替工部については、現場塗装(一部工場)を実施する。
3. 床版上面(既設床版箇所)に、素地調整工1種を実施する。
本橋周辺には商業施設および民家が近接しているため、第三者によって粉塵飛散、騒音に対する苦情が生じるなど、工事上の制約によって、素地調整程度1種(プラスチック)が不可能な場合には協議を行う。

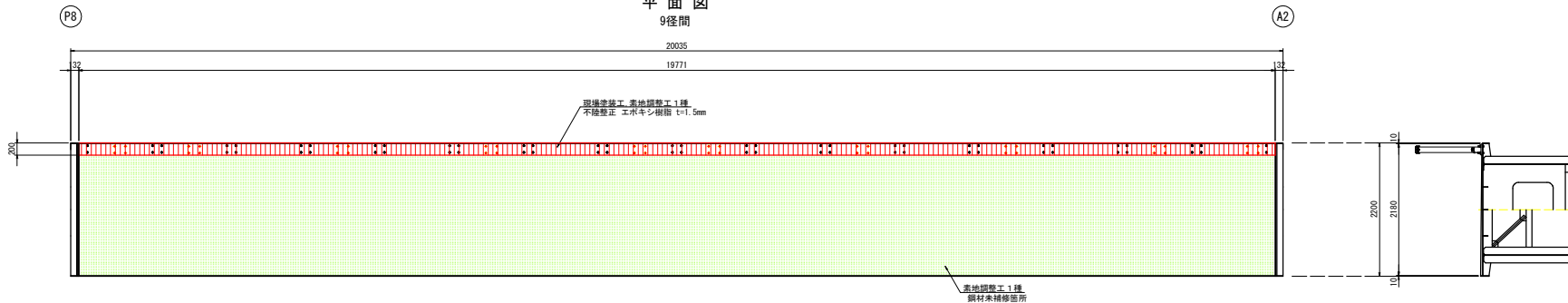
平面図
7径間



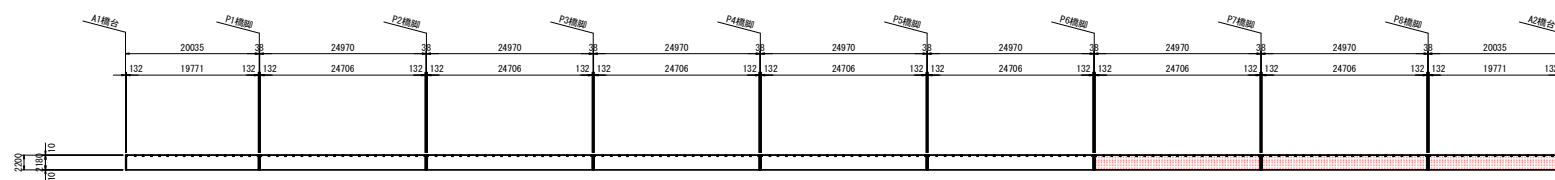
平面図
8径間



平面図
9径間



位置図



実施設計図面

工事名	R7馬士 鳴門池田線(管江谷橋) 奥・脇岸原 橋梁補修工事		
路線名等	(主) 鳴門池田線(管江谷橋)		
工事箇所	奥馬市脇岸原		
図面名	下流側側道橋 床版工補修詳細図(8/9)		
縮尺	1:40	図面番号	16 / 21
会社名			
事業者名	徳島県西部総合県民局(奥馬)		

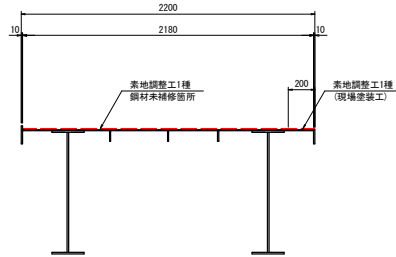
下流側側道橋床版工補修詳細図(9/9) S=1:20
床版上面補修工詳細図

床版上面補修工詳細図 S=1:20

素地調整工詳細図

断面図

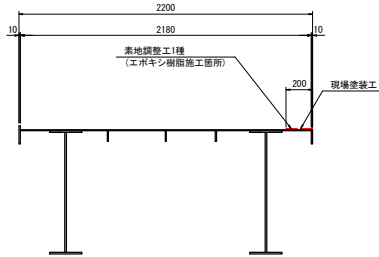
床版取替工未実施箇所



塗装及び補修工詳細図

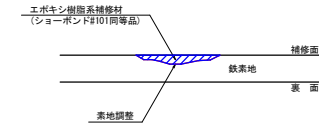
断面図

床版取替工未実施箇所



板厚減少部補修図

エポキシ樹脂補修図 S=NTS



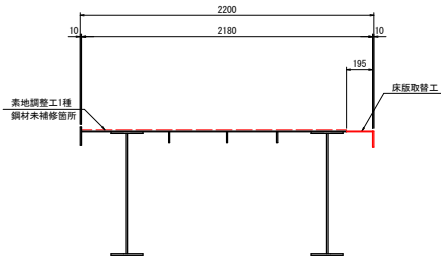
板厚減少補修工

A =	5.249 m ² (設計数量)	W =	13.385 kg (設計数量)
-----	-----------------------------	-----	------------------

- 注記
1) 減内部の補修厚みは素地の厚み以上とする。
2) 施工は、塗装・塗装後の素地調整後に施工を実施する。

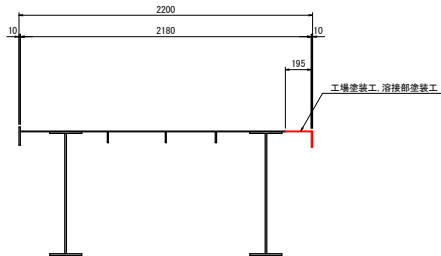
断面図

床版取替工実施箇所



断面図

床版取替工実施箇所

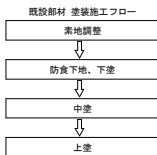


既設部材 塗装規格表 (Rc-塗装系) (スプレー)			
名称	規格	使用量 (g/m ²)	塗装間隔
素地調整	動力工具処理		
防食下地	有機ジンクリッチペイント	600	4時間以内
下塗り	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1~10日
中塗り	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料中塗	240	1~10日
上塗り	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	170	1~10日

新規部材 塗装規格表 (スプレー)			
塗装工程	規格	使用量 (g/m ²)	塗装間隔
製鋼工場	素地調整	プラスト処理 ISO Sa 2 1/2	
	プライマー	無機ジンクリッチペイント	4時間以内
橋梁製作工場	2次素地調整	プラスト処理 ISO Sa 2 1/2	
	防食下地	無機ジンクリッチペイント	6ヶ月以内

新規部材 現場溶接部塗装規格表 (スプレー)			
塗装工程	規格	使用量 (g/m ²)	塗装間隔
現場	素地調整	動力工具処理	
	防食下地	有機ジンクリッチペイント	4時間以内
	下塗り	変性エポキシ樹脂塗料下塗	1~10日
	中塗り	変性エポキシ樹脂塗料中塗	1~10日
	上塗り	ふっ素樹脂塗料上塗	1~10日
	上塗り	ふっ素樹脂塗料上塗	140

- ※1: 原則はスプレー塗装とするが、発注者との協議の上で、はけ、ローラーに変更できる。
※2: 現場の施工条件に応じて塗装間隔を別途取り決める場合もある。
※3: プラスト処理による除錆度は ISO 8501-1 Sa 2 1/2 とする。
※4: 製鋼工場におけるプライマーは膜厚 (15µm) にて管理する。



- ※1: 原則はスプレー塗装とするが、発注者との協議の上で、はけ、ローラーに変更できる。
※2: 現場の施工条件に応じて塗装間隔を別途取り決める場合もある。
※3: プラスト処理による除錆度は ISO 8501-1 Sa 2 1/2 とする。

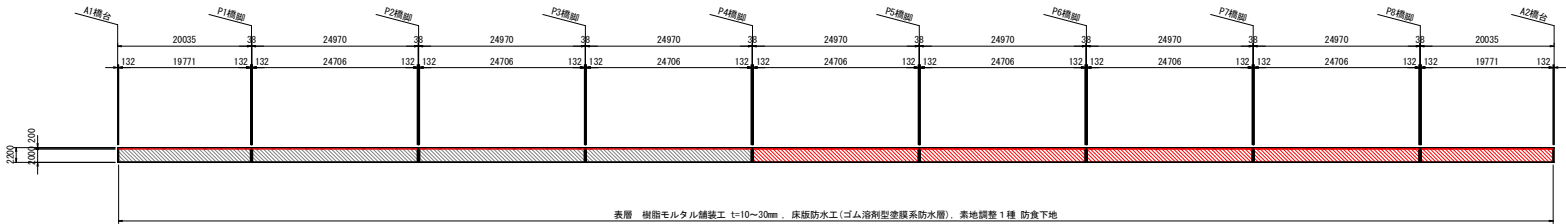
- 注) 1. 施工前に、近接調査計測を実施し、既設構造物の詳細寸法計測、障害の有無及びハンドリング等を調査すること。
2. 端部よりW=200mmの範囲及び、床版取替工部については、現場塗装(一部工場)を実施する。
3. 床版上面(既設床版箇所)に、素地調整工1種を実施する。
本橋周辺には商業施設および民家が近接しているため、第三者によって粉塵飛散、騒音に対する苦情が生じるなど、工事上の制約によって、素地調整程度1種(プラスト工)が不可能な場合には協議を行う。

参考図面

工事名	R7馬土 鳴門池田線 (管江谷橋) 奥・脇岸原 橋梁補修工事		
路線名等	(主) 鳴門池田線 (管江谷橋)		
工事箇所	奥馬市脇岸原		
図面名	下流側側道橋 床版工補修詳細図 (9/9)		
縮尺	1:20	図面番号	17 / 21
会社名			
事業者名	徳島県西部総合県民局 (奥馬)		

下流側側道橋橋面工補修図 S=1:40
舗装詳細図

全体平面図 S=1:400



補修凡例

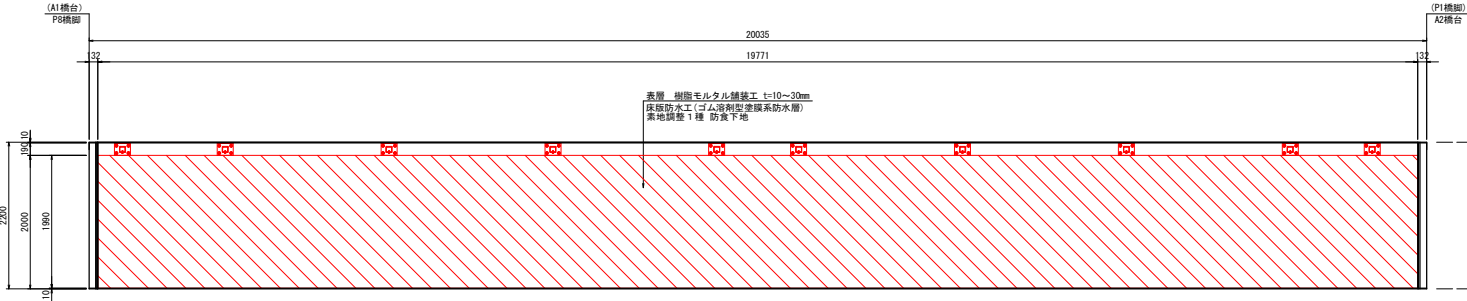
補修の種類	表 示
遮膜系防水層 舗装	

補修数量

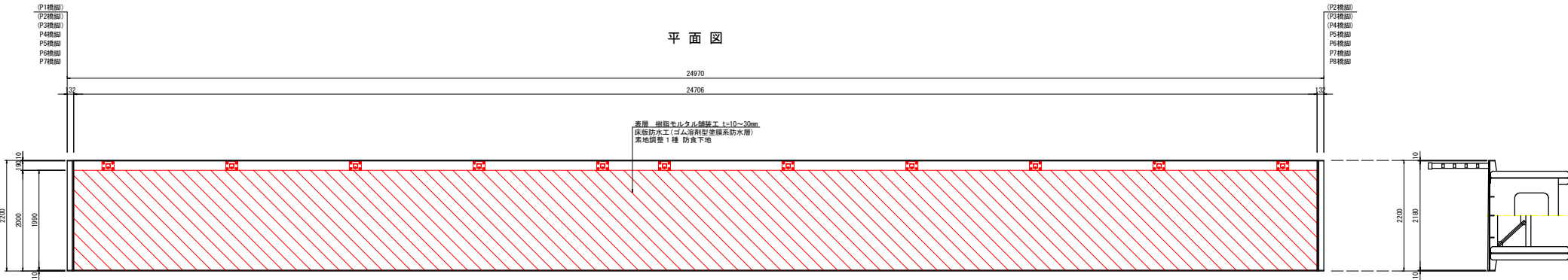
補修の種類	径 間 名	数 量
歩道舗装 表層	A1-P1径間	39.3 m ²
	P1-P2径間	49.2 m ²
	P2-P3径間	49.2 m ²
樹脂モルタル舗装工 t=10~30mm	P3-P4径間	49.2 m ²
	P4-P5径間	49.2 m ²
床版防水 ゴム溶剤型遮膜系防水層	P5-P6径間	49.2 m ²
	P6-P7径間	49.2 m ²
	P7-P8径間	49.2 m ²
	P8-A2径間	39.3 m ²
素地調整 1 種 防食下地	合 計	423.6 m ²

注) 1. 施工の際は、現地再測を行い決定すること。
2. 防水層は舗装箇所に設置する。

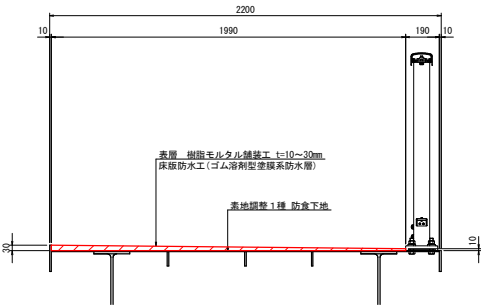
平面図



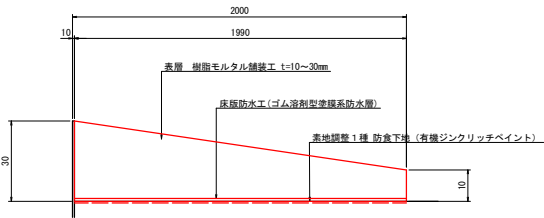
平面図



断面図 S=1:15



舗装構成図 S=NS



既設部材 塗装規格表 (Ro= 塗装系) (スプレー)			
名 称	規 格	使用量 (g/m ²)	塗装間隔
素地調整	1 種	600	4時間以内
防食下地	有機ジンクリッチペイント		

既設部材 塗装施工フロー



※1: 原則はスプレー塗装とするが、発注者との協議の上で、はけ、ローラーに変更できる。
(はけ、ローラー塗りにした場合は2回塗りとする)
※2: 現場の施工条件に応じて塗装間隔を別途取り決める場合もある。
※3: プラスト処理による除錆度は ISO 8501-1 Sa 2 1/2 とする。

実施設計図面

工 事 名	R7 馬土 鳴門池田線 (管江谷橋) 奥・脇岸原 橋梁修繕工事
路線名等	(主) 鳴門池田線 (管江谷橋)
工事箇所	奥馬市脇岸原
図 面 名	下流側側道橋 橋面工補修図
縮 尺	図 示 図面番号 18 / 21
会 社 名	
事業者名	徳島県西部総合県民局 (奥馬)

高欄詳細図

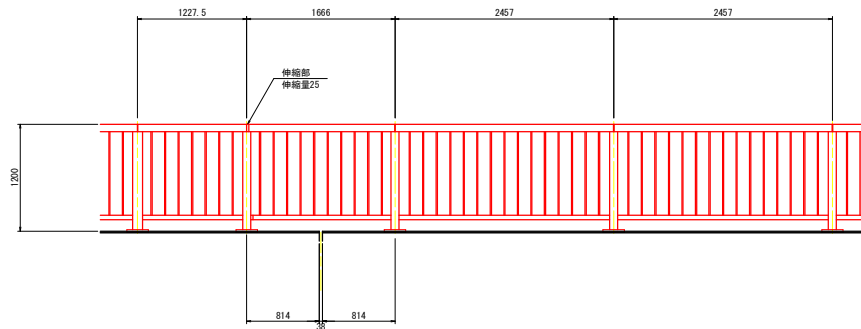
S=1:200

(P4~A2)

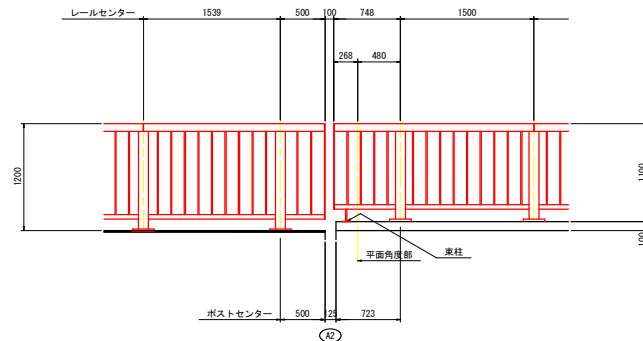
Aタイプ高欄総延長 L=215.164m
全てレベル用



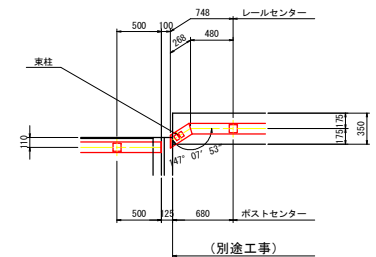
矢視A-A



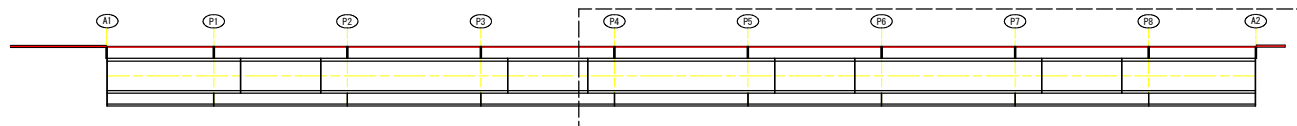
矢視B-B



イ部詳細図



S=1:500

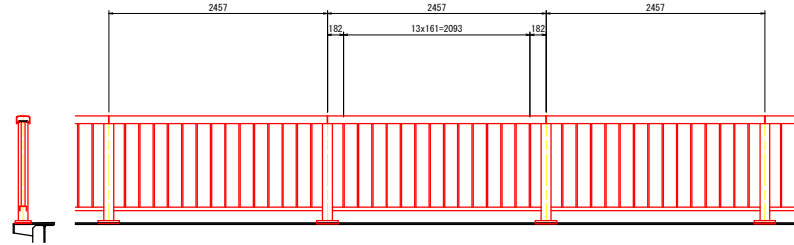


実施設計図面

工 事 名	R7馬士 鳴門油田線 (管江谷橋) 美・油洋原 橋梁修繕工事		
路線名等	(主) 鳴門油田線 (管江谷橋)		
工事箇所	美馬市臨町洋原		
図 面 名	下流側倒道橋 防護欄工補修図 (1/2)		
縮 尺	図 示	図面番号	19 / 21
会 社 名			
事業者名	徳島県西部総合合民局 (美馬)		

下流側側道橋防護柵工補修図 (2/2) S=1:30
高欄詳細図

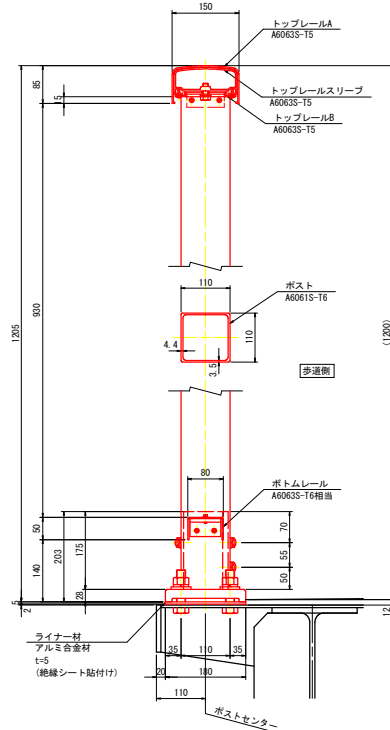
姿 図 S=1:30



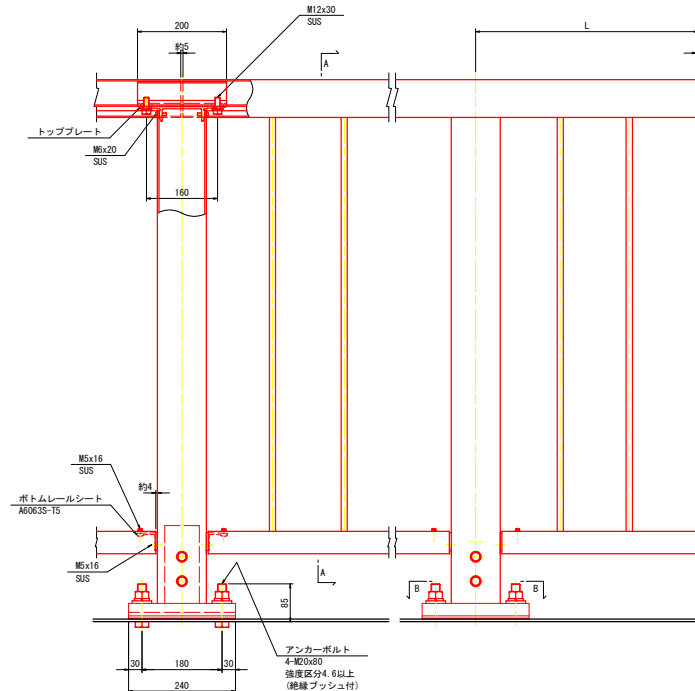
材 料 表

(0.828m当たり)									
部番	名称	寸 度	数 量	単 重	1本重	総重量	材質	備 考	
1	トップレールA	2452.0	4	2.782	6.82	27.3	A6063S-T5		
2	トップレールB	2452.0	4	1.304	3.20	12.8	A6063S-T5		
3	ポスト	1107.0	4	4.643	5.14	20.6	A6061S-T6		
4	トップスリーブ	200.0	4	3.405	0.68	2.7	A6063S-T5		
5	トッププレート	84.0	4	3.417	0.29	1.2	A6063S-T6相当		
6	バラスト	955.5	56	0.463	0.44	24.6	A6063S-T5		
7	ボトムレール	2339.0	4	1.391	3.25	13.0	A6063S-T6相当		
8	ボトムシート	69.0	8	1.171	0.08	0.6	A6063S-T5		
9	六角ボルト	M12x30	8		0.05	0.4	SUS	W1, SW1	
10	トラスタッピンネジ	M5x16	16		0.003	-	SUS		
11	十字穴付き六角ボルト	M5x16	8		0.004	-	SUS	W1, SW1	
12	なべタッピンネジ	M6x20	16		0.01	0.2	SUS		
13	トラスタッピンネジ	M4x16	64		0.002	0.1	SUS		
14	なべタッピンネジ (2種)	M4x20	224		0.002	0.4	SUS		
15	アルミベース		4		4.84	19.4	A6061S-T6	ライナー材	
16	甲丸ボルト	M12x30	8		0.08	0.6	SUS	W1, SW1	
17	アンカーボルト	M20x85	16		0.40	6.4	強度区分4.6以上	N1, φ44W1, SW1	
						総重量	130.3	Kg	
						重量り	13.3	Kg/m	

高欄取付詳細図 S=1:6
(橋梁部) Aタイプ

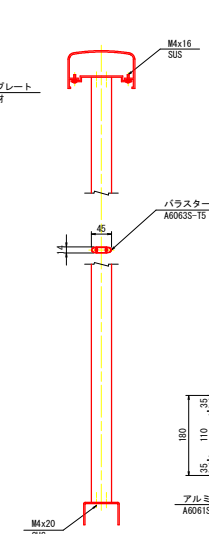


継手部

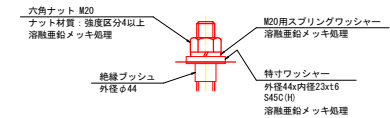


端 部

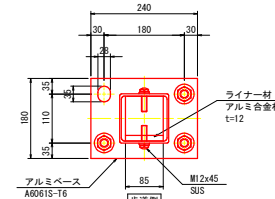
断面A-A



アンカーナット締め付け部 S=1:3



断面B-B



実施設計図面

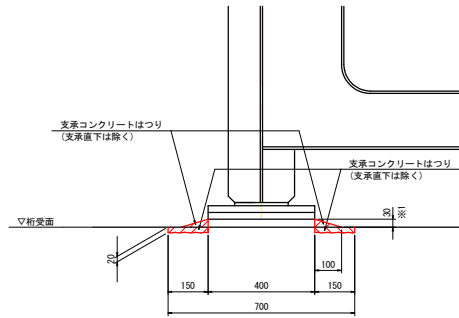
- 注記
- 本高欄の設計・製作仕様は(社)日本アルミニウム協会 土製品開発委員会作成「アルミニウム合金製橋梁用防護柵設計要領」(平成30年6月)による。
「アルミニウム合金製橋梁用防護柵製作・施工要領」(平成27年3月)による。
 - 本高欄の表面処理は、アルマイト処理とし色調種類は「シルバー色A2種」とする。
アルミベース・ポストのサヤ管部の表面処理は生地とする。
 - 強度区分の表記なきボルト類はA2-50以上とする。ただし、ビス類はA2とする。
 - ボルト・ビス類のSUS材は塩害対策処理とする。
 - 絶縁ブッシュの色調は黒色とし絶縁シートはグレー色とする。

工事名	R7馬土 鳴門池田線(管江谷橋) 奥・脇岸原 橋梁修繕工事		
路線名等	(主) 鳴門池田線(管江谷橋)		
工事箇所	奥馬市脇岸原		
図 面 名	下流側側道橋 防護柵工補修図 (2/2)		
縮 尺	図 示	図面番号	20 / 21
会 社 名			
事業者名	徳島県西部総合農林局(奥馬)		

下流側側道橋 支承工補修図 S=1:10
(支承モルタル補修)

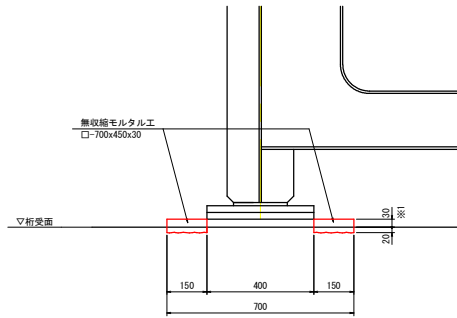
支承モルタル取壊図

断面図



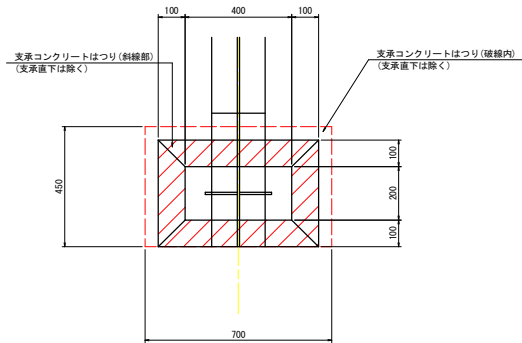
支承モルタル補修図

断面図

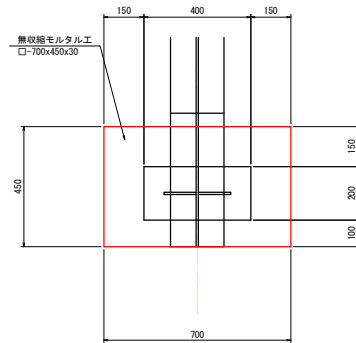


※1. モルタル高さは、既設モルタル高と合わせること。

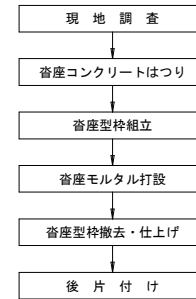
平面図



平面図

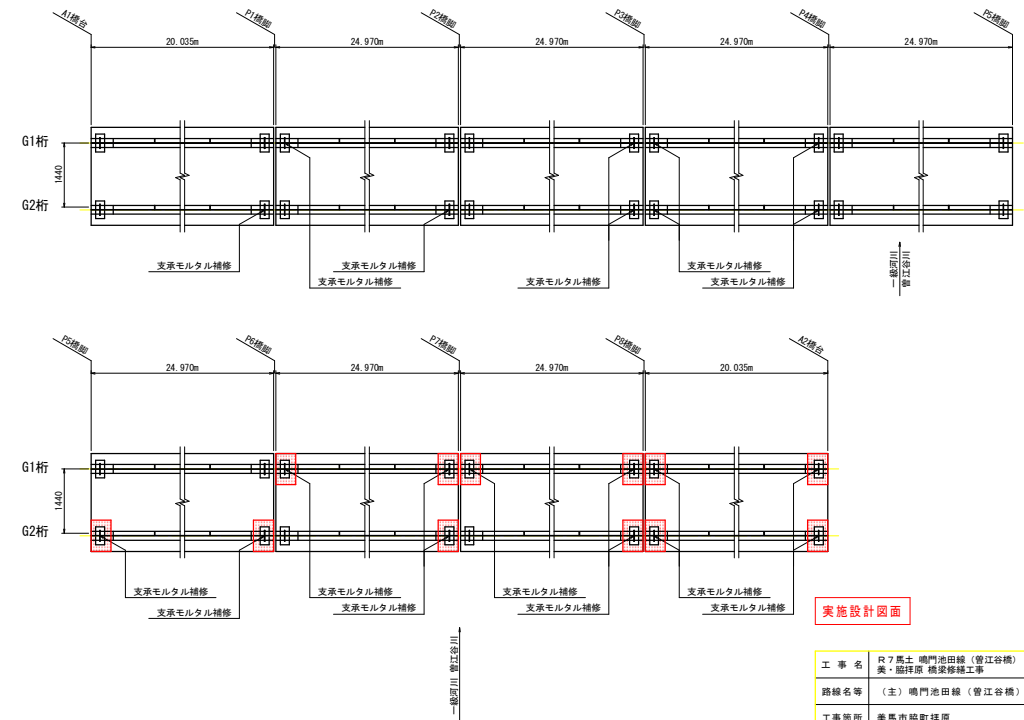


支承モルタル施工フロー



注記)
1. 図中、詳細寸法は現地検測のうえ決定すること。
2. ジャッキアップをしないで施工を実施するため、
支承下面の無収縮モルタルは、取壊さない。

位置図 S=1:60



実施設計図面

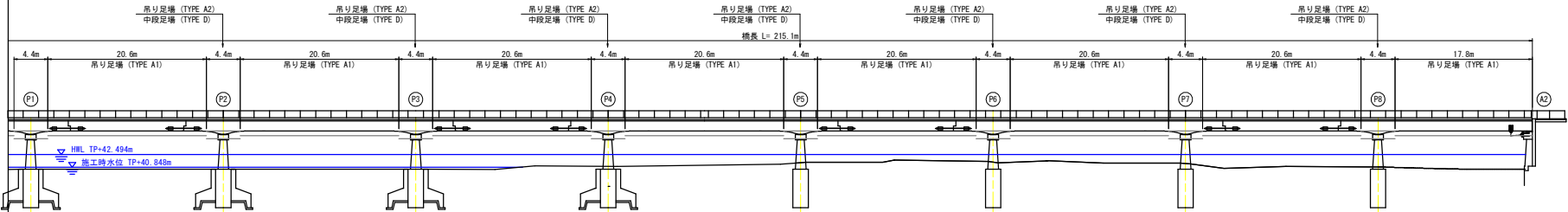
工事名	R7 馬士 鳴門池田線 (管江谷橋) 奥・臨岸原 橋梁修繕工事		
路線名等	(主) 鳴門池田線 (管江谷橋)		
工事箇所	奥馬市臨岸原		
図面名	下流側側道橋 支承工補修図		
縮尺	1:50	図面番号	21 / 21
会社名			
事業者名	徳島県西部総合県民局 (奥馬)		

仮設工参考図

上部工仮設

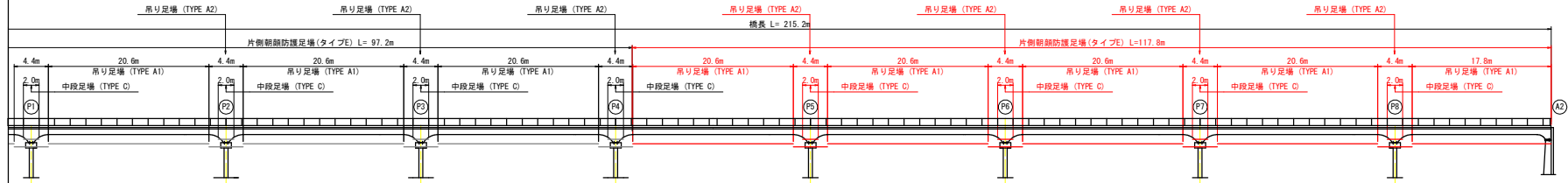
車道橋側面図

S=1:300



下流歩道橋側面図

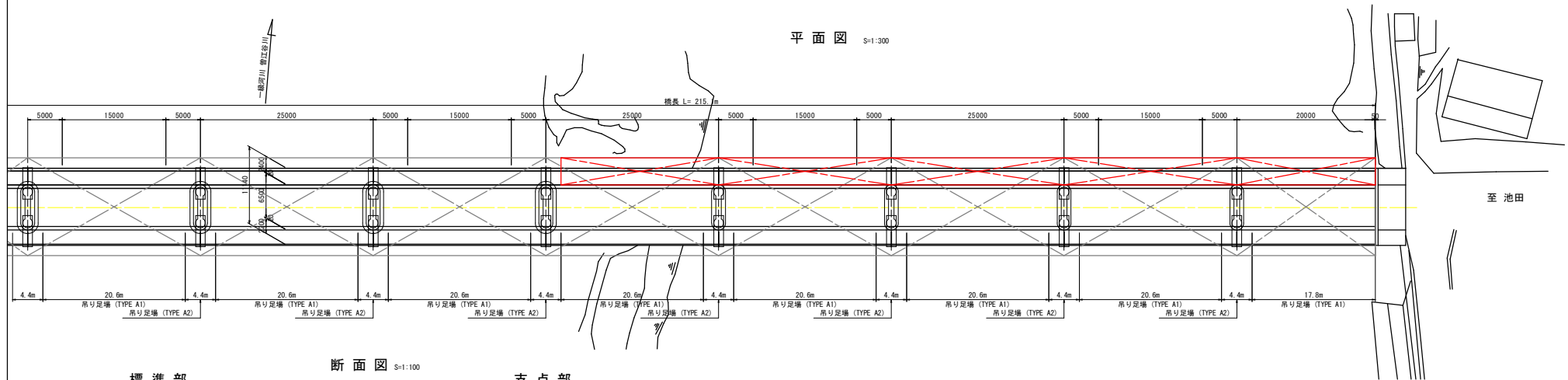
S=1:300



上流側歩道橋は、中段足場を設置しない。
吊り足場規格等は、車道橋に準ずる。

平面図

S=1:300

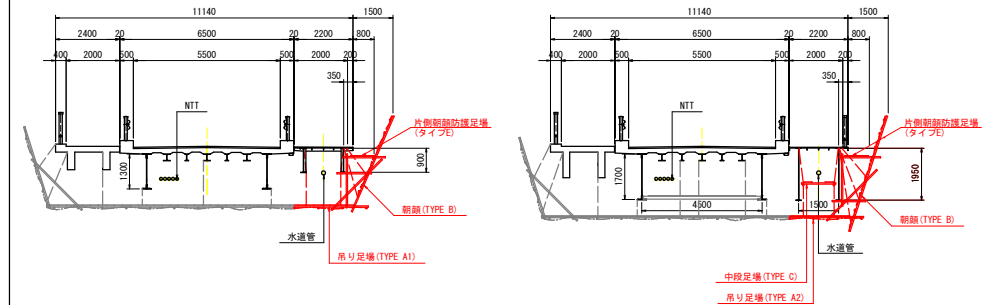


断面図

S=1:100

標準部

支点部



※現地盤は、他工事において橋梁下流側は整地されており、図面とは異なる。

参考図

注記

- ・吊り足場作業床高は、非出水期水位(11~5月)以上で桁下余裕高を確保した最適作業位置とすること。
- ・足場設置・撤去時に通行規制(一時通行止め等)を行う場合は、工事発注者と協議すること。
- ・本図面は参考図であるため、適切な仮設計画を立案すること。
- ・本図面は、車道橋および上流側歩道橋と同時に施工を想定した仮設計画としているため、施工範囲が異なる場合は工事発注者と協議を行い施工範囲に合わせた仮設計画に変更すること。
- ・添架物・架空線等の支障物件を再確認すること。

工事名	R7馬土 嶋門池田線(曾江谷橋) 美・臨祥原 橋梁修繕工事		
路線名等	(主) 嶋門池田線(曾江谷橋)		
工事箇所	美馬市臨祥原		
図面名	仮設工参考図		
縮尺	図示	図面番号	/
会社名			
事業者名	徳島県西部総合振興局(美馬)		